

Osaka Medical College Faculty of Nursing

大阪医科大学看護学部

年報 2016年度

Annual Report 2016

大阪医科大学 看護学部 2016 年度年報 目次

はじめに

I.	沿革	1
II.	看護学部教員組織	
1.	教員構成及び教員数	2
III.	年間事業	
1.	年間事業活動内容	3
2.	2016 年度看護学部予算執行額	5
3.	学事一覧	6
4.	学生在籍数	10
IV.	運営と教育活動	
1.	運営組織	11
2.	看護学部センター	
	看護学実践研究センター	12
	教育センター	14
	学生生活支援センター	16
3.	看護学部委員会	
	予算委員会	21
	実習委員会	22
	ウェブサイト委員会	23
	看護研究雑誌編集委員会	24
	物品管理委員会	25
	就職支援委員会	26
	国家試験対策委員会	27
	年報編集委員会	28
	広報委員会	29
4.	大学院委員会	30
5.	看護学部教育活動	
	1) 授業科目一覧	31
	2) 各領域の教育活動	40
6.	大学院教育活動	
	1) 授業科目一覧	50
	2) 博士課程修了者学位論文タイトル一覧	55

V. 研究活動	
1. 研究実績	
1) 外部資金・競争的研究資金等の申請採択状況	56
2) 各自の業績（外部資金獲得除く）	60
VI. 社会活動	74
VII. 地域・社会貢献	80
VIII. その他	82

はじめに

学校教育法施行規則の改正に伴い、3つのポリシーが義務化されたことを受け、各大学が3つのポリシーを踏まえた大学教育に積極的に取り組み始めた。一方で、学長のリーダーシップの下での大学の特色ある研究を基軸とした全学的な独自性のある取り組みや、地域連携・協力による大学の特色ある事業の取り組みなど、特別補助金の獲得による大学評価が問われる時代になっている。そのために、本学においても平成27年より大槻学長をリーダーシップとする教学改革が始まっている。今年度も学長が立ち上げた研究戦略会議及び教育戦略会議で、学長の教学改革方針である5つの矢（Innovation, Globalization, Social Contribution, Translational Research, Open Mind）について取り組んできた。特に、看護学部が独自に取り組んできた一年間の教育、研究、社会貢献について2016年度年報としてまとめた。

大阪医科大学看護学部長

林 優子

I. 沿革

沿革

1927（昭和 2）年	2 月	財団法人大阪高等医学専門学校設置認可
1927（昭和 2）年	4 月	大阪高等医学専門学校開校認可（修業年限 5 年）
1929（昭和 4）年	3 月	大阪高等医学専門学校附属看護婦学校設立認可
1946（昭和 21）年	3 月	大阪医科大学設置認可（旧制大学）
1946（昭和 21）年	4 月	大阪医科大学予科設置
1948（昭和 23）年	2 月	大阪医科大学医学部開学認可
1951（昭和 26）年	3 月	学校法人大阪医科大学認可（組織変更による）
1952（昭和 27）年	2 月	大阪医科大学設置認可（新制大学）現在に至る
1952（昭和 27）年	3 月	大阪高等医学専門学校廃校
1959（昭和 34）年	3 月	大阪医科大学大学院医学研究科設置認可
1965（昭和 40）年	1 月	大阪医科大学進学課程設置認可
1978（昭和 53）年	4 月	大阪医科大学附属看護専門学校設置認可
1982（昭和 57）年	12 月	大阪医科大学附属看護専門学校 3 年課程（全日制）設置認可
2009（平成 21）年	10 月	大阪医科大学看護学部設置認可
2010（平成 22）年	4 月	大阪医科大学看護学部開設
2012（平成 24）年	3 月	大阪医科大学附属看護専門学校閉校
2013（平成 25）年	10 月	大阪医科大学大学院看護学研究科設置認可
2014（平成 26）年	4 月	大阪医科大学大学院看護学研究科開設

Ⅱ. 看護学部教員組織

1. 教員構成及び教員数

教員数は、下記の表の通りである。

【看護系教員】

平成 28 年 9 月 29 日

領 域	教 員 数 () 内は定員数				
	教授	准教授	講師	助教	計
基礎看護学	1 (1)	0 (2)	2 (0)	1 (2) 留学 (H30. 3 迄)	4 (5)
急性期成人看護学	1 (1)	0 (1)	1 (0)	1 (1)	3 (3)
慢性期成人看護学	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (1)	2 (3)
精神看護学	1 (1)	0 (1)	1 (0)	0 (1)	2 (3)
老年看護学	0 (1)	1 (1)	1 (0)	1 (1)	3 (3)
小児看護学	1 (1)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	3 (3)
母性看護学・助産学 (コース選択 6 名)	1 (1)	0 (3)	2 (0)	1 (1)	4 (5)
在宅看護学	0 (1)	1 (1)	1 (0)	1 (1)	3 (3)
公衆衛生看護学 (コース選択 40 名)	1 (1)	1 (3)	1 (0)	1 (1)	4 (5)
看護実践発展	2 (2)	0 (1)	1 (0)	0 (1)	3 (4)
計	9 (11)	5 (15)	10 (0)	7 (11)	31 (37)

【医学系・人文社会系教員】

領 域	教 員 数 () 内は定員数				
	教授	准教授	講師	助教	計
精神医学 公衆衛生学 内科学	3 (3)	0	0	0	3 (3)
哲学	0 (1)	1 (0)	0	0	1 (1)
計	3 (4)	1 (0)	0	0	4 (4)

Ⅲ. 年間事業

1. 年間事業活動内容

看護学部事業計画として、看護学部における各種センター及び各種委員会活動を積極的に実施し、医学部との連携、大阪医科大学病院看護部及び三島南病院等の看護部との連携を図った。

1) 看護学部の活動内容

看護学部／看護学研究科	<p>【学部教育と大学院教育の質的転換】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の質向上（教育の質的転換：タイプ1の実施、高大接続の取り組み）の推進 2. FDの推進 3. 大学病院、三島南病院、地域包括医療センターとの連携・協働の推進 4. 看護学研究科の活性化（授業科目及び新分野設置構想案の提言） <p>【国際交流の推進】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 山西医科大学看護学部との締結 2. 中山国際医学医療交流センターとの連携 3. アジア圏留学生受け入れの推進（台北医学大学、山西医科大学） <p>【研究拠点形成】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 科研費等公的外部資金獲得の推進 2. 近隣アジアにおける研究拠点の推進
看護学実践研究センター	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域医療に関する課題解決のための研究拠点（地域包括ケアに対する研究、人材育成のための研修プログラム作成） 2. 国際交流を通しての研究拠点（海外留学生の研修プログラム作成、看護経験者の海外研修への支援、海外との共同研究支援） 3. 文科省競争的資金獲得申請の取り組み（課題解決型高度医療人材養成プログラム事業、大学の世界展開力強化事業）
看護学教育センター	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程に関すること（シラバス作成、シラバスのペーパーレス化の評価等、改正カリキュラムの申請） 2. 4年次授業の運用展開（卒業研究、保健師及び助産師の選抜） 3. 授業評価及び卒業時到達目標自己評価の見直し、実施、評価（授業評価、実習評価、GPA導入） 4. 教育環境整備の充実（機器活用評価、セルフトレーニング室） 5. FD企画と実施 6. 医看融合教育の実施と充実（医看融合ゼミ、地域医療実習） 7. 私立大学等改革総合支援事業の取り組み（タイプ1）
看護学学生生活支援センター	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習環境の整理整頓への支援 2. 公共性のある奨学金の開示の促進 3. 保健管理室との連携の緊密化 4. 学生からの要望に対する対応

	<ul style="list-style-type: none"> 5. 学生自治に向けた支援 6. 学外合宿の支援 7. HP の内容充実
予算委員会	<ul style="list-style-type: none"> 1. 看護学部年間予算の適正化 2. 平成 28 年度予算執行報告 3. 平成 29 年度予算案作成（10 月）
実習委員会	<ul style="list-style-type: none"> 1. 実習連絡協議会の企画、運営（7 月と 3 月） 2. 実習連絡会議のあり方の検討と調整 3. 看護学実習要綱（共通事項）、各領域実習要項、広域統合看護学実習要項、看護実践発展実習要項等の修正と取り纏め 4. 領域別実習のグループ編成、実習オリエンテーションの企画・運営、実習全般（ワクチン接種状況、感染予防等）に関わる調整 5. 実習中のヒヤリハット/インシデント/アクシデント等の分析と今後の対策の検討
ウェブサイト委員会	<ul style="list-style-type: none"> 1. 看護学部教員・各領域に関する情報更新 2. 各センター・委員会関連ページの更新・充実 3. カリキュラム・各ポリシー等の改正に対応した修正 4. 日本語と連動した英文ページの更新 5. その他必要な更新及び情報公開
看護研究雑誌編集委員会	<ul style="list-style-type: none"> 1. 第 7 巻発行と投稿への働きかけ 2. 2 名の査読体制の維持 3. 査読者を広く学外に求めるための基盤作り計画
国家試験対策委員会	<ul style="list-style-type: none"> 1. 全員合格を目指した国家試験受験対策指導の継続 2. 平成 28 年度国家試験対策の模試及び対策講座の実施 3. 平成 29 年度国家試験対策の企画及び予算案の作成 4. 国家試験対策活動の保護者への周知 5. 模試成績不良者の対策：講座受講時に座席指定（前方）、チューターとの情報共有及びチューターへの学習指導強化の依頼 6. 4 年次を 2 回履修する学生への対応 7. 国家試験に不合格した卒業生への対応
就職支援委員会	<ul style="list-style-type: none"> 1. 学生に対する就職情報提供 2. 学生の就職活動力強化のためのサポート 3. 教員の就職活動支援力向上のためのサポート 4. 就職活動及び内定状況の把握 5. 卒業生と在校生の交流の機会を設け、情報提供の充実をはかる 6. 来校人事担当者との対応による情報収集 7. 卒業生の動向に関する情報収集のあり方に関する検討 8. HP の更新と内容充実

看護学部年報編集委員会	1. 平成 27 年度年報の編集及び冊子での発行 2. 平成 28 年度年報の取り纏め
物品管理委員会	1. 教務関係備品・消耗品の在庫管理と点検 2. 平成 28 年度教務関係物品購入予算案の作成 3. 教務関係備品の貸し出し管理
看護学部広報委員会	1. オープンキャンパスの企画・運営 2. 看護学部案内書の企画・作成 3. 進学ガイダンス出向の調整・実施 4. 看護学部の教育・研究活動の学内外への紹介 5. 看護学部案内書サブツールの企画・作成 6. 学校訪問の調整・実施

2) 看護学研究科の活動内容

看護学研究科大学院委員会	1. 授業科目及び新分野設置構想の推進 2. 学位授与基準等の検討に基づいた教育要領の充実 3. 入試相談会の開催や HP の充実等による広報活動の推進 4. 教育活動に関する自己点検と教務システムの充実 5. 山西医科大学修士学生の受け入れと交流活動の推進 6. 学習環境の整備、交流会の開催など学生サービスの充実
--------------	---

2. 2016 年度看護学部予算執行額

予算執行額 82,847,271 円

【内訳】

看護学部教育経費	45,806,578 円
看護学部奨学金経費	37,000,000 円
看護学部研究活動経費	40,693 円

3. 学事一覧

1) 看護学部の学事一覧

表 1 参照

2) 看護学研究科の学事一覧

表 2 参照

表1 看護学部 2016 年度学事一覧

4 月		5 月		6 月		7 月		8 月		9 月	
日曜	実習	曜	内 容	曜	内 容	曜	内 容	曜	内 容	曜	内 容
1 金		日		水	創立記念日	金⑫	学生公衆衛生実習Ⅰ①留修所 実習Ⅰ②留修所 実習Ⅰ③留修所	月2金⑬	公衆衛生実習Ⅱ② 助産学実習	水	助産学実習 2年後期授業開始
2 土	健康診断：午前：2年 午後：4年	月④		木⑧		土		火	試験 期講 問講 及び ひ 試	金	
3 日		火	憲法記念日	金⑧		日		水		土	
4 月	オリエンテーション	水	みどりの日	土		月⑬	4年既修履合新履せミ	木		日	
5 火	オリエンテーション	水	こどもの日	日		火⑫		金		月	
6 水	学部入学式 2～4年前期授業開始	金④		月⑨		水	助産学実習	土		火	
7 木	新入生学外合同 水①（2～4年のみ）	火⑧		火⑧		木⑬		日		月	
8 金	新入生学外合同 金①（2～4年のみ）	水	水⑦看護学部教授会15～	水	水⑦看護学部教授会15～	金⑬		月	採点締切 通再試日指調査	火	
9 土		月⑤		木⑨		土		水	通再試対象者発表の手続	金	
10 日		火④		金⑨		日		木	通再試対象者発表の手続	土	
11 月①	1年前期授業開始	水	水④看護学部教授会15～	土		月④		金	通再試対象者発表の手続	日	
12 火		木⑤		日		火⑬		土	通再試対象者発表の手続	月	
13 水	看護学部教授会 15～	金⑤		月⑩	公衆衛生実習Ⅱ① 看護実習発展実習	水	水⑫看護学部教授会15～	金	通再試対象者発表の手続	火	
14 木		土		火⑨		木⑭		土	通再試対象者発表の手続	水	看護学部教授会15～
15 金		日		水	水⑧学科会議15～	金⑭		日	通再試対象者発表の手続	金	
16 土		月⑥		木⑩		土		月	通再試対象者発表の手続	土	
17 日		火⑤		金⑩		日		火	通再試対象者発表の手続	金	
18 月		水⑤	学科会議15～	土		月	短の日	水		土	
19 火	試験 期講 問講 期講	木⑥		日		火⑭		金	通再試対象者発表の手続	日	
20 水	水② 学科会議15～	金⑥		月⑪	公衆衛生実習Ⅱ① 看護実習発展実習	水	水⑬ 学科会議15～	土	通再試対象者発表の手続	月	敬老の日
21 木		土		火⑩		木⑮		日	通再試対象者発表の手続	火	
22 金		日		水	水⑨看護学研究科教授会15～	金⑮		月	通再試対象者発表の手続	水	学科会議16:30～
23 土		月⑦		木⑪		土		火	通再試対象者発表の手続	木	秋分の日
24 日		火⑥		金⑪		日		水	通再試対象者発表の手続	金	
25 月		水⑥		土		月⑮	採点登録開始	木	通再試対象者発表の手続	土	
26 火		木⑦		日		火⑮		金	通再試対象者発表の手続	日	
27 水	水③ 看護学研究科教授会15～	金⑦		月⑫	公衆衛生実習Ⅱ① 看護実習発展実習	水	水⑭ 看護学研究科教授会15～	土	通再試対象者発表の手続	月	
28 木		土		火⑪		木⑯		日	通再試対象者発表の手続	火	看護学研究科教授会15～
29 金	昭和の日	日		水		金⑮		月	通再試対象者発表の手続	水	
30 土		月⑧		木⑫		土		火	3年後期授業開始 3年全体オリエンテーション	金	
31 火		火⑦		金⑫	公衆衛生実習Ⅱ① 看護実習発展実習	日		水	通再試対象者発表の手続	土	

備考：広域統合看護学実習は各領域で6月～9月までに実施予定

日曜	10月	11月	12月	1月	2月	3月	実習
曜日	内容	内容	内容	内容	内容	内容	実習
1 土	火 火⑤	公衆衛生看護学実習Ⅱ④ 領域別実習	木 ⑧	実習と理論	水	水	実習
2 日	水 水⑤	公衆衛生看護学実習Ⅱ⑤ 領域別実習	金 ⑨	実習と理論	木	木	実習
3 月 ①	水 文化の日	公衆衛生看護学実習Ⅱ⑥ 実習と理論	土		金	金	実習
4 火 ①	金 ⑤	公衆衛生看護学実習Ⅱ⑦ 実習と理論	日		土	土	実習
5 水 水①	土		月 ⑨	実習と理論	日	日	実習
6 木 ①	日		火 ⑩		月	月	実習
7 金 ①	月 ⑤	公衆衛生看護学実習Ⅱ⑧ 領域別実習	水 ⑨		火	火	実習
8 土	火 火⑥	公衆衛生看護学実習Ⅱ⑨ 領域別実習	木 ⑨		水	水	実習
9 日	水 水⑥ 看護学部教授会15～		金 ⑩	成人の日	木	木	実習
10 月	水 水⑤		土	火 ⑬	金	金	実習
11 火 ②	金 ⑥	公衆衛生看護学実習Ⅱ④ 領域別実習	日	水 水③ 看護学部教授会15～	土	土	実習
12 水 ② 看護学部教授会15～	土		月 ⑩		日	日	実習
13 木 ②	日		火 ⑪		月	月	実習
14 金 ②	月 ⑥	公衆衛生看護学実習Ⅱ⑤ 領域別実習	水 ⑩		火	火	実習
15 土	火 火⑦	公衆衛生看護学実習Ⅱ⑥ 領域別実習	木 ⑩		水	水	実習
16 日	水 水⑦ 学科会議16:30～		金 ⑪		木	木	実習
17 月 ②	水 水⑥	公衆衛生看護学実習Ⅱ⑦ 領域別実習	土		金	金	実習
18 火 ③	金 ⑦		日		土	土	実習
19 水 ③ 学科会議16:30～	土		月 ⑪		日	日	実習
20 木 ③	日		火 ⑫		月	月	実習
21 金 ③	月 ⑦	公衆衛生看護学実習Ⅱ⑧ 領域別実習	水 ⑪	学科会議16:30～	火	火	実習
22 土	火 火⑧	公衆衛生看護学実習Ⅱ⑨ 領域別実習	木 ⑪	通算日付調査	水	水	実習
23 日	水 勤労感謝の日		金 天童誕生日		木	木	実習
24 月 ③	水 木⑦		土		金	金	実習
25 火 ④	金 ⑧	公衆衛生看護学実習Ⅱ④ 実習と理論	日		土	土	実習
26 水 ④看護学研究科教授会15～	土		月 ⑫		日	日	実習
27 木 ④	日		火		月	月	実習
28 金 ④	月 ⑧	公衆衛生看護学実習Ⅱ⑤ 実習と理論	水	看護学研究科教授会15～	火	火	実習
29 土	火 火⑨		木		水	水	実習
30 日	水 水⑤看護学研究科教授会15～		金		木	木	実習
31 月 ④	土	公衆衛生看護学実習Ⅱ⑥ 領域別実習	土		金	金	実習

備考:基礎看護学実習Ⅰについては10月6日～12月22日の期間、毎週木曜日に行う

表2 看護学研究科 2016 年度学事一覽

[illegible]

10 月			11 月			12 月			1 月			2 月			3 月		
日	曜	内 容	日	曜	内 容	日	曜	内 容	日	曜	内 容	日	曜	内 容	日	曜	内 容
1 土	(祝) 土①								1 日					水			
2 日									2 月					木			
3 月	(第)月①								3 火					金			
4 火	(第)火①								4 水					土 (院) 土⑩			
5 水									5 木 (院) 木⑩					日			
6 木	(第)木①								6 金 博士論文提出 (正午) (主査副査への配布) (院) 金⑩					月			
7 金	(第)金①								7 土 (院) 土⑩					火			
8 土	(祝) 土②								8 日					水			
9 日									9 月 成人の日					木			
10 月	体育の日								10 火 (院) 火⑩					金			
11 火	(第)火②								11 水					土			
12 水	(第)水②								12 木 (院) 木⑩					日			
13 木	(第)木②								13 金 (院) 金⑩					月			
14 金	(第)金②								14 土 (院) 土⑩					火			
15 土	靖国神社祭 (祝) 土③								15 日					水			
16 日									16 月					木			
17 月	(第)月②								17 火					金			
18 火	(第)火③								18 水					土			
19 水									19 木					日			
20 木	(第)木③								20 金					月			
21 金	(第)金③								21 土					火			
22 土	(祝) 土④								22 日					水			
23 日	(第)日③								23 月					木			
24 月	(第)月④								24 火					金			
25 火	(第)火④								25 水					土			
26 水	看護学研究科教授会15～								26 木					日			
27 木	(第)木④								27 金					月			
28 金	(第)金④								28 土 (院) 土⑩					火			
29 土	(祝) 土⑤								29 日					水			
30 日									30 月 (最終試験) (院) 月⑩					木			
31 月	(第)月⑤								31 火					金			

4. 学生学籍数

1) 看護学部

(平成 28 年 5 月 1 日現在)

学年 (入学定員)	1 年 (85)	2 年 (85)	3 年 (85)	4 年 (85)	合計 (340)
男	1	3	2	9	15
女	85	86	85	87	343
計	86	89	87	96	358

*H28 年 5 月以降 1 名退学者有 H29 年 3 月現在 1 年生 女 84 名

2) 看護学研究科

【博士前期課程】

(平成 28 年 4 月末現在)

コース	専門分野	1 年	2 年	長期履修他	合計
教育研究コース	看護技術開発学	1	1	0	2
	移植・再生医療看護学	2	2	1	5
	がん看護学	1	2	0	3
	慢性看護学	0	0	0	0
	精神看護学	1	0	0	1
	母性看護学	1	1	0	2
	小児看護学	1	0	0	1
	地域看護学	0	1	0	1
高度実践コース	慢性看護学	1	0	0	1
	精神看護学	0	0	2	2
	母性看護学	0	0	0	0
	小児看護学	1	1	1	3
合 計		8	8	4	20

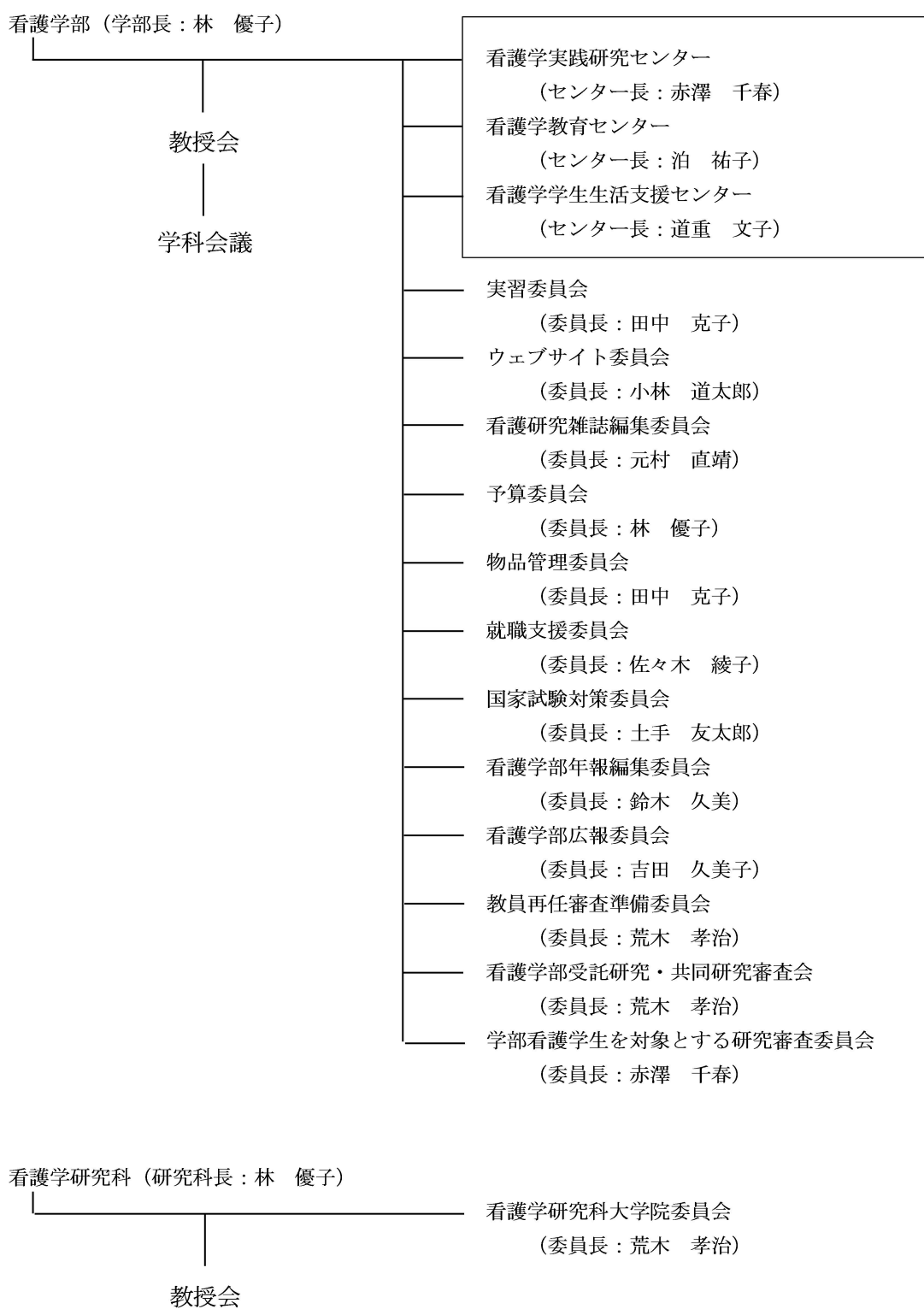
【博士後期課程】

平成 28 年 4 月末現在

領域名	1 年	2 年	3 年	合計
療養生活支援看護学	4	4	3	11
地域家族看護学	1	4	2	7
合 計	5	8	5	18

IV. 運営と教育活動

1. 運営組織（センター及び委員会組織図）



2. センター

センター名	看護学実践研究センター
目的	本センターは本学部内、大学内をはじめ、外部機関及び地域社会における看護実践の課題に関する研究を推進するとともに、その成果を発信することを使命とする。
構成員	赤澤千春（センター長）、佐々木綾子、真継和子、カルデナス暁東、西菌貞子、土肥美子、曾我浩美、杉山恵美子（看護学事務課）
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究実績の集約及び実践応用の機会に関する事項 2. 看護に関する研究情報の収集と内外への発信に関する事項 3. 看護実践研究の支援に関する事項 4. 看護生涯学習の支援に関する事項 5. 国際交流の支援に関する事項 6. その他、センター長が必要と認める事項
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員会の開催 12回の定例委員会と1回の臨時委員会を開催した。 2. 第5回市民看護公開講座の開催 日時：2017年3月18日（土） 参加者数：113名 テーマ：「百歳まで自分の足で歩く」 講演Ⅰ 講師：荒牧秀樹 （神戸スタイリスト学院理事長/株式会社エフエルエス代表取締役） 講演Ⅱ 講師：本多容子 （藍野大学看護学部 老年看護学 教授） 3. 大阪医科大学 人材育成教育セミナー テーマ：「病院研修で活用できる人材育成教育プログラムの展開」 大阪医科大学看護学部 講師 西菌貞子 大阪医科大学看護学部 教授 赤澤千春 第1回 日時：2016年11月19日（土） 参加人数7名 第2回 日時：2016年12月17日（土） 参加人数7名 4. 国際交流セミナー 2016年10月24日に TMU 派遣学生1名と看護学部学生の交流を行った。 5. 中山国際センター主催国際交流シンポジウム 2016年7月31日に TMU 派遣学生1名が発表した。 6. 山西医科大学研修生の受け入れ 平成28年9月～11月 研修生1名 研修場所は本学と神戸市北須磨訪問看護・リハビリセンターで臨床講義と訪問看護同行見学を行った。 7. 第1回大阪医科大学看護研究会

	<p>日時：平成 29 年 3 月 18 日</p> <p>内容：看護実践研究センター活動報告</p> <p>研究活動報告 口演 4 題，示説 10 題</p> <p>講演：「地域文化とコミュニティの力」</p> <p>馬場雄司（京都文教大学教授）</p> <p>参加人数：27 名</p> <p>8. TMU への学生派遣関連</p> <p>看護学部 3 年生 4 名を選抜し、2016 年 3 月 7～11 日派遣した。</p> <p>9. 次年度 TMU からの学生受け入れについて、中山国際医学医療交流センターと調整を行った。</p> <p>10. 教員の発表済ポスターの常設掲示を行った。計 3 題のポスターを掲示した。</p>
評価	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は TMU への学生派遣が 4 名であった。山西医科大学からの研修生の受け入れができた。 ・市民看護講座が例にない参加者数であり、アンケート結果でも参加者から好評を得ている。 ・大阪医科大学看護研究会を発足した。 ・地域人材教育への支援を開始した。 <p>2. 改善すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外からの学生及び研修生のプログラムの作成とホームページ上への掲載 ・中山国際医学医療交流センターとより円滑に連携を図っていく。 ・看護実践研究の支援に対しても具体的な計画を立てて進めていく。
将来に向けた発展方策・課題	<p>看護学実践研究センターは地域の看護の質の向上のために活動をし続けていくことが重要であるので、地域の特色を十分に考慮し、大小の施設に限らず多くの施設へ、実践研究に関する支援を継続していく。</p>

センター名	教育センター
目的	教育課程が円滑に進められるように教育計画、教育環境整備、医看融合教育、授業評価、FD (Faculty Development) 等に関する事項の企画・調整・実施・評価をすることである。
構成員	泊祐子 (センター長)、荒木幸治、鈴木久美、土手友太郎、小林道太郎、竹明美、月野木ルミ、寺口佐與子、有友彰一 (看護学事務課)、北尾里江 (看護学事務課)、星加圭子 (看護学事務課)
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程に関すること (シラバス作成、シラバスのペーパーレス化の評価、改正カリキュラムの申請) 2. 4 年次授業の運用展開 (卒業研究、保健師及び助産師の選抜) 3. 授業評価及び卒業時到達目標自己評価の見直し、実施、授業評価、GPA 導入 4. 教育環境整備の充実 (機器活用評価、セルフトレーニング室) 5. FD 企画と実施 6. 医看融合教育の実施と充実 (医看融合ゼミ、地域医療実習) 7. 私立大学等改革総合支援事業の取り組み (タイプ 1)
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新カリキュラムの最終決定とカリキュラムポリシーの改定とマップの作成 2. 選択科目の履修に関する問題点 (履修者の偏りや履修困難など) の改善 3. 卒業演習の報告会開催方法の変更 報告会の開催は領域毎とし、抄録・論文の締切りを 12 月下旬に同一日設定とした。卒業研究の領域決定は、クリッカーナノを活用した、公平性を重視した選抜方法とした。大きなトラブルもなく円滑な選抜となった。領域毎の配置人数は大学院生数を加味し、教員負担の平等化と指導のしやすさに配慮した。 4. 助産師・保健師国家試験受験資格履修の選抜は、助産師 6 名、保健師志望者通りに決定した。 5. 学生の成績評価への GPA の導入方法の検討 これまでの成績に GPA の試算を行い、導入方法を検討した。教員及び全学生への周知を徹底した。 6. 医看融合教育の実施と充実への検討 ①看護学部と医学部の 1 年生全員を対象とした「医療人マインド」、②看護学部 3 年生が母性領域、精神領域の実習において、同時期にクリニカル・クラークシップ実習の医学部 5 年生との「医看融合カンファレンス」、③医学部 6 年生と看護学部 4 年生の「医看融合ゼミ」を行った。このゼミには大阪薬科大学から 2 名の学生も参加した。④本年度初めて、医学部・看護学部・大阪薬科大学学生各 2 名合計 6 名でチームを組み、高知県本山町での「地域医療実習」を行った。 7. 卒業時到達目標の自己評価を実施した。 8. 学習環境整備 1) セルフトレーニングコーナー (STC) の活用による自学自習の促進プログラムの企画・運営 STC の利用方法と利用手引きの見直し、促進のためのトレーニング・プログ

	<p>ラムの企画</p> <p>2) クリッカーの資料による双方向授業の促進</p> <p>9. FD の企画と実施</p> <p>1) 講演会 混合研究法（ミックスドメソッド）の基礎と臨床研究への活用 AI 時代の看護教育 “意志ある学びを叶えるプロジェクト学習・ポートフォリオ・対話コーチング～アクティブラーニングをこえて”</p> <p>2) 実習に関する学内交流会の開催</p>
評価	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>1) 新カリキュラムの最終決定とカリキュラムマップの作成により、4 年間の授業の見通しをガイダンスで説明しやすく。学生も理解しやすくなった。</p> <p>2) 授業活性に関するシラバスについて、教員へのシラバス配布の周知と活用の促進をアナウンスすること、及び必要項目等の評価を行う必要である。 今後はシラバスの携帯を学生が常に活用できる形態に検討する。</p> <p>3) FD 活動として、学内交流会を行い、学生の実習姿勢に関する問題への意見交換を継続して、対策についての討論を計画する必要がある。</p> <p>4) 卒業時到達目標の自己評価を実施して 3 年になるので、これまでの学年の評価の結果の比較と卒業時と 3 年次終了時ではどのような能力が上がっているあるいは不足していると評価しているのかを検討して、最終学年のカリキュラム構成や事業運営を検討する必要がある。</p> <p>5) 卒業演習報告会は、全領域平日複数日開催となったことで他領域ゼミの 4 年生や下級学年の学生が参加しやすい効果があった。</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>医看融合教育の中間学年のカンファレンスの評価と医学部学生への周知と全学生が受講できる体制の検討が継続課題となっている。</p>
将来に向けた発展方策・課題	<p>1. 次年度の入学生から改正のカリキュラムの運用になるので、教育課程の運用面での課題やスムーズな運営のための検討を行う。また、これまでの教育評価の目的で卒業後の成長を確認する必要があるので、卒業生の能力の進展や教育上の課題を明確にするための調査を計画する。</p> <p>2. 文部科学省で検討されている看護学モデルコアカリキュラムの方向性を見据えながら、求められるコアコンピテンシーの本学のカリキュラムの中で位置づけを明確する。必要時は改善を計画する。</p> <p>3. GPA 導入後の学生指導への活用方法のさらなる検討を行う。</p> <p>4. 卒業時到達目標の自己評価を実施して 3 年になる。これまでの教育に結果の評価を行い、今後のカリキュラムや運営及び卒業後の成長の評価計画を立てる必要がある。</p>

センター名	学生生活支援センター
目的	本センターは、看護学部における円滑な学生生活の提供をめざし、学生生活の中で学生が抱える諸問題（修学、大学生活への悩み、経済的事由に起因する悩みなど）に組織的に対応し、学生の主体的な大学教育への適応を図り修学効果を高められるよう厚生補導の一役を担う。
構成員	道重文子（センター長）、津田泰宏、竹村淳子、久保田正和、瓜崎貴雄、西頭知子、肥後雅子、川上将弘（看護学事務課）
活動計画	<p>2016 年度の年間計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 総代・副総代の連絡会 2. （チューター制度）チューターが活動しやすい、学生が相談しやすい環境づくり（継続） 3. （奨学金）公共性のある奨学金の開示の促進 4. （健康管理）保健管理室との連携の一層の緊密化 5. （学生からの要望に対する対応）意見箱の運用 6. （学生自治）学生が自ら話し合い、学生生活の問題を解決していくことの支援、謝恩会準備の支援 7. （学外合宿）参加者の安全、学生の課題達成を促進できる組織作り 8. ホームページの内容の充実 9. 学習環境の整備
活動概要	<p>1. 各月の活動概要</p> <p>月 1 回の定例会議を開催し、必要事項の確認と検討を行った。各回の会議については議事録を作成し保存している。また、医学部及び看護学部両センター長及び、両学部事務員による連絡会議を月 1 回定例に開催している。学生支援上の課題を両学部で共有し、大学としての統一方針に則った対応を行うよう努めている。</p> <p>以下、各月の主な活動である。</p> <p>4 月：センター委員の役割分担、新年度チューターグループへの移行</p> <p>5 月：奨学金応募者選考面談審査、保健管理室との連携の一層の緊密化</p> <p>6 月：講義室の私物整理の実施、学生生活実態調査結果報告、看護学部給付奨学金の選考審査</p> <p>7 月：総代連絡会実施、休養室の運営方法の見直し</p> <p>9 月：学生ガイドの見直し、新入生学外合宿委員会委員を決定</p> <p>10 月：日本学生支援機構「平成 28 年度学生生活調査」実施、医・看合同新入生学外合宿の検討</p> <p>11 月：新入生オリエンテーションの検討、学友会規程見直し</p> <p>12 月：学生・教員懇談会の実施、</p> <p>1 月：学生・教員懇談会での学生意見の集約・回答検討、年報作成準備、卒業記念品に対する助言</p>

2月：学生生活のガイドの検討、卒業記念品の決定、学生生活実態調査（2年生から4年生）、次年度チューター制度の検討、看護学部生学友会委員の選出

3月：年報の報告

2. 担当ごとの活動内容

1) 奨学金関連

2016 年度奨学金希望学生に対して、募集説明会を開催した。本学入学後の奨学金申込学生に対しては、応募書類を記載し提出させた。その後、センター教員による面接を行い、家庭の経済状況、奨学金の必要性の度合いや、受給後返済の重要性の理解度等について面接を実施し、センター教員による選考を行った。

2016 年度日本学生支援機構奨学金の新規採用者は次の通りである。家族所得が一定水準以下の方が対象になる第一種（無利子）は、1 年生 9 名であった。家族所得に関わらず申請可能であるが、各校ごとの推薦可能枠数に制限がある第二種（有利子）は、1 年生 17 名、3 年生 2 名であった。本学看護学部独自の奨学金は、次のものが準備されている。大阪医科大学看護学部入学時特待生規程として、1 年生の入学時成績優秀者上位 4 名に給付奨学金、大阪医科大学看護学部奨学金給付規程として 2 年生から 4 年生の成績優秀者上位 4 名に給付奨学金があった。大阪医科大学看護学部特別奨学金貸与規程として、専願入学者（本学入職希望者）に貸与奨学金がある。平成 25 年度入学生 9 名、平成 26 年度入学生 10 名、平成 27・28 年度入学生 5 名であった。その他、大阪医科大学総務部人事課が窓口になる、大阪医科大学看護奨学金がある。大阪医科大学入職を希望するものであり、看護学部生 3-4 年生の希望者が申請手続きする事により、窓口担当部門で採否を決定する貸与奨学金である。一定期間就労する事により返済が免除される。

外部資金の奨学金として、本年度受給実績の奨学金は、次の 2 組織である。小野奨学会は、1 年生 1 名、2 年生 2 名、3 年生 2 名、4 年生 4 名で、奥村奨学会は、2 年生 1 名、4 年生 2 名であった。

その他、外部資金の奨学金については、募集の都度掲示板等に周知したが希望者が無く申請していない。

2) チューター制度の実施

チューターグループの編成:チューター教員の組み合わせは、下記のとおりであった。4 年生は例年通り卒業演習担当教員とした。

表 1. 2016 年度チューターグループ(1～3 年生担当)

No	担当教員	No	担当教員	No	担当教員
1	道重、横山	6	元村、西頭	11	佐々木、山埜
2	田中、竹	7	赤澤、久保田	12	鈴木、林
3	泊、大橋	8	津田、上山、肥後	13	竹村、土肥
4	荒木、佐野	9	小林、月野木、西薊	14	真継、瓜崎
5	土手、寺口	10	吉田、曾我	15	カルデナス、草野、川北

	<p>教員 2～3 名で 1～3 学年の学生 17～18 名を担当した。面談は集団面談、個人面談を含め、各担当教員の判断による実施とした。</p> <p>3) 学生意見箱の設置</p> <p>月 1 回の開箱とした。今年度の投書は 2 件であり、内容は 1 階が寒いためお昼休みに暖房の温度を上げてほしいとユニパの教室予約機能の拡大についての要望であった。各項目については学生懇談会の回答書に追記し回答した。</p> <p>4) ホームページ</p> <p>ホームページの内容を充実させるために検討を重ね、学習環境の整備、奨学金、健康管理、チューター等の活動の具体的内容を掲載するように修正を行った。</p> <p>5) 学生と教員との懇談会の開催</p> <p>12 月 2 日（金）昼休みの時間帯を利用してランチョン交流会を開催した。参加者は、学生 11 名（4 年生 6 名、3 年生 2 名、2 年生 1 名、1 年生 2 名）、教員 11 名（学部長、学生生活支援センター長・委員、有志教員）、学務部 3 名であった。懇談会では学生から、施設・設備、事務連絡手段、ユニバーサルパスポートのシステム等について意見・要望が出され、教員との意見交換を行った。意見交換の結果に関しては『学生からの要望に対する回答書』として、後日学生に提示した（3 月）。また以下の 4 点（施設・設備に関すること 2 点、ユニバーサルパスポートのシステムに関すること 2 点）に関しては、今後、継続して検討することとなった。①トイレ内へのジェットタオルの設置、②屋根付き駐輪スペースの拡大、③ユニバーサルパスポートを通した演習室の予約（現在は事務室で申し込み）、④ユニバーサルパスポートで送信されたメールをアンドロイドスマートフォンで読めるようにしてほしいこと（現在はアイフォンでのみ可能）。</p> <p>6) 健康管理について</p> <p>保健管理室と連携して学生の健康管理を行った。看護学部生の保健管理室の年間利用件数は延 49 件であり、感冒様症状、頭痛、消化器症状、軽度の外傷などが主な理由であった。健康面やメンタル面で注意した方が良いと思われる学生は 8 名ほど存在し、センター会議で報告され委員で情報を共有するとともに必要があればチューターに連絡して面接等の対応をお願いした。実習前の予防接種や健康診断の状況も保健管理室と情報を共有して不備のある学生に対してチューターを通して連絡し、指導した。また北キャンパスの休養室に関して、年間利用数は 11 件であり、この休養室の清掃、シーツ交換の頻度、血圧計や SaO2 モニターの設置などについても議論し、整備する方向で進めている。</p> <p>7) 学生自治支援について</p> <p>学生が学生生活の様々な課題に主体的に取り組むことができるように、学生の相談の窓口となって対応した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4 月に、各学年の総代・副総代の継続の意思確認を実施した。 ・ 7 月に各学年の総代・副総代を参集し、学年の枠を越えて総代・副総代が関係を築けるような場を設定するようにアドバイスした。
--	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・講義室内に私物が散見されることについて、担当教員が私物の放置の状況を毎月チェックし、注意喚起及び私物の回収を実施した。 ・ロッカーの使用についての注意事項を UNIPA で全学生に掲示し、夏季休暇期間にチェックした。 ・4 回生の謝恩会担当委員からの質問に対し一緒に検討した。また、このような最終学年次に必要な事柄の準備等の内容の継承ができるように、4 回生が 1～3 回生に協力を募れるようにアドバイスした。 ・学友会についての説明を行い、参加等についてアドバイスした。 <p>8) 「学生生活ガイド」作成</p> <p>昨年度検討中であった「学生生活ガイド」(案)の作成を引き継ぎ、平成 29 年度から活用するための「学生生活ガイド」を完成させた。作成に当たっては、看護学部 of 学生生活上で必要となる内容が網羅されるよう留意した。学生の活用頻度や重要事項について検討し、項目立てと順序を整理するとともに施設利用方法やルールに関しても最新情報を掲載した。さらに、学生からの問い合わせに対応できるよう看護学部の連絡先を明記するなど、学生生活ガイドの冊子がより活用しやすい内容とした。</p> <p>9) 医学部、看護学部合同新入生学外合宿</p> <p>ラフォーレ琵琶湖にて、4 月 7～8 日の 1 泊 2 日で行った。看護学部は、学生 85 名、教員 10 名が参加した。グループワークでは、将来どんな医療者になりたいか、そのために学生生活をどう過ごすかを主題にし、発表討論会を行った。合宿後のアンケート(回答率 95.3%)では、友だちができた、医療人を目指す自覚が湧いた、グループ討論が有意義だった等といった意見がみられた。</p>
評価	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>1) 奨学金関連では、公共性のある日本学生支援機構ならびに各種財団、その他、各地の病院等施設からの奨学生募集の情報開示が促進されている。また、面接を行うことで奨学金の内容について学生に理解を促している。</p> <p>2) 各学年の総代・副総代を参集や懇談会を開催し、学年の枠を超えて関係が築ける場を設け連携を促進した。</p> <p>3) 保健管理室とのタイムリーな情報共有により、早期に関係委員会や学生に関わることができるようになった。実習の関係から 2 年生の感染症 4 種感染抗体検査の日程を 1 月から 6 月に変更依頼した。</p> <p>4) 医学部・看護学部の連絡会議の定例化によって、両学部の学生生活支援に関する情報共有と新入生合同学外合宿規定や学友会会則の制定を行うことができ、大学の学生生活支援の連携がはかられている。</p> <p>5) 学生生活支援に関する研修会に教員と事務職員と連携し、3 つの研修会に参加し、研修内容については学会会議でも報告し、学生支援についての情報を共有することができている。</p>

	<p>2. 改善すべき事項</p> <p>1) 奨学金受給者で成績不良のために受給停止となった学生があり、選考時の審査方法、その後の指導が必要である。</p> <p>2) UNIPA からの連絡の受信や教室予約についての要望があり、事務課と連携し整備を図る。</p> <p>3) 学生との懇談会等を活用した意見交換が行われているが、縦断的な学年間の交流が不十分であり、学友会活動への参加も含め、学生が主体的に快適な学生生活を送ることができる支援体制づくりの推進が重要な課題となる。</p>
将来に向けた発展方策・課題	<p>1. 奨学金受給者が成績不良による打ち切り防止のために成績に関する審査要件を整備する。</p> <p>2. 学生の自治活動推進のため、学友会活動への参加や懇親会への参加者の増加をはかる運営ができるように支援する。</p> <p>3. 精神的に不安定な学生に対する支援方法について教員の関わり方を共有するために研修を行う。</p>

3. 委員会

委員会名	予算委員会
目的	看護学部における適正な年間予算案を要望することを目的とする。
構成員	林優子（学部長）、泊祐子（教育センター長）、田中克子（実習委員会委員長）、元村直靖（教授）、有友彰一（看護学事務課）
活動計画	<p>各部署等より提出された予算案を基に作成された平成 29 年度看護学部予算案の審議を行い、教授会で承認を得た。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の教育、学生の実習に係る備品等 2. 各センター及び各委員会に係る活動費 3. 教員の研修等に係る活動費 4. 教員の交通費 5. 実習補助員に係る諸経費 6. 看護学事務課に係る諸経費 7. その他、学部長が必要と認めたもの
活動概要	<p>平成 29 年度予算案を作成するために、看護学部消耗品等できるだけ削減するように努め、看護学部として以下の新規購入を要望した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高研・装着型男性導尿モデル・LM-109MA（基礎看護学領域）（¥87,000） 2. 術後ケアスーツ・M177（急性期成人看護学領域）（¥590,000） 3. Mouse 14 型ノート PC・LB-B422XN-SSD2（¥66,000）（公衆衛生学看護学領域） 4. バイタルサインベビーⅡ・M58（小児看護学領域）（¥422,000） 5. 高齢者疑似体験教材 スタンダード PLUS2 グループ体験セット（老年看護学領域）（¥93,000） 6. 電動自転車パナソニック・ビビ TX BE-ELT63（¥84,000）（老年看護学領域） 7. 看護学部棟 1 階 研究室 L103 研究室流し設置工事（¥740,000）（看護学部） 8. BIGPAD SHAR60 インチ・PN-L603A 他 4 式（¥5,500,000）（教育センター）
評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 効果が上がっている事項 予算委員会で審議し、教授会で最終確認することによって適正な予算要望を推進することができた。 2. 改善すべき事項 予算委員会では予算案作成のみでなく、年度の予算決定の確認と執行状況をチェックしていく必要がある。
将来に向けた発展方策・課題	平成 29 年度予算の執行状況を確認しながら、看護学部にとって適正な予算要望を検討することが重要である。

委員会名	実習委員会
目的	看護学実習に関わる事項（年間計画の立案、実習要項の作成、実習連絡協議会の運営、実習中のインシデント等に関する検討など）の調整を目的とする。
構成員	田中克子（委員長）、竹村淳子、久保田正和、西園貞子、竹明美、寺口佐與子、瓜崎貴雄、川北敬美、佐野かおり
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習連絡協議会の企画、運営、今後の実習連絡会議のあり方の検討と調整 2. 看護学実習要綱（共通事項）、各領域実習要項、広域統合看護学実習要項、看護実践発展実習要項等の修正と取りまとめ 3. 領域別実習の学生のグループ編成、実習オリエンテーションの企画運営、本年度の実習全体に関わる調整 4. 実習中のインシデント・アクシデントなどの分析と今後の対策の検討
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 7月1日に第1回実習連絡協議会、3月1日に第1回実習連絡協議会を開催した。7月は看護部から29名、外部施設から8名の参加があった。各領域より本年度の実習概要に関する説明等を行った。3月は看護部から27名、外部施設から28名の参加があった。本年度の実習をしてその報告等を行った。実習科目の学年進行にそって報告を行い、全体像が見えるように運営した。 2. 看護学実習要綱をはじめ各実習の要項を作成した。 3. 各実習の運営に関する調整を行った。 4. 実習中のインシデント等に関する取り組みを充実させるため、WGによる提出された報告書の内容の点検と検討課題の抽出、実習委員会にてのメンバー間での議論を行った。 5. 学習態度・成績不良者に対する効果的な教育への対策の糸口になるようにFDを開催してもらった。
評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 効果が上がっている事項 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習運営の調整の議論に加え実習学生に関する情報交換を定期的に行った。 2) 実習のインシデント等に関する分析が深まり問題点が共有しやすくなった。 2. 改善すべき事項 <p>個人情報の取扱いに関する学生の意識の徹底の方策について更に検討していく必要がある。1-2月にかけての複数回の記録の紛失への対応策、7号館のカードキーの紛失への対策の検討も継続していく必要がある。</p>
将来に向けた発展方策・課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の精神的健康が悪化したときの対応や支援体制の検討 2. 実習にまつわる情報管理、機器管理の対策の検討

委員会名	ウェブサイト委員会
目的	看護学部ウェブサイトを目滑りに管理運用する。
構成員	小林道太郎（委員長）、横山浩誉、山埜ふみ恵、川上将弘（看護学事務課）
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学部教員・各領域に関する情報更新 2. 各センター・委員会関連ページの更新・充実 3. カリキュラム・各ポリシー等の改正に応じた修正 4. 日本語と連動した英文ページの更新 5. その他必要な更新及び情報更新
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員会の開催 委員会（7回）及び業者との打ち合わせ（1回）を開催し、サイト更新に関する検討・準備と確認を行った。 2. サイト更新 <ol style="list-style-type: none"> 1) 教員一覧、各教員情報、教員からのメッセージ、領域ページの更新 2) 国家試験合格情報、就職・進路状況の更新、学生生活支援センターページ更新、看護実践研究センター等告知掲載 3) 看護学部3ポリシー、4年間のカリキュラムの流れ他更新 4) 英文ページ更新（英文ページは2017年度より大学HP委員会・情報企画管理部の管理に移行することとなった） 5) 看護学部トップ写真更新、2015年度看護学部年報、看護研究雑誌第7巻掲載、その他情報公開
評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 効果が上がっている事項 今年度必要な情報更新を行うことができた。特に次年度からのカリキュラム改正に対応する準備を行った。また前年度できなかったトップページ写真の更新を行った。 2. 改善すべき事項 教員情報等の更新時期が遅くなってしまったため、次年度は早期に取り掛かる必要がある。
将来に向けた発展方策・課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各センター・委員会とも連絡をとり、必要な情報が適時に更新できるようにする。 2. 次年度以降、大学全体のサイトリニューアルが計画されているため、それに合わせて動く必要がある。

委員会名	看護研究雑誌編集委員会
目的	おもに看護学部の教員がその研究業績を発表する雑誌である「大阪医科大学看護研究雑誌」の論文受稿・査読、編集、出版等に関わる業務を行う。
構成員	元村直靖（委員長）、真継和子、小林道太郎、竹明美
活動計画	2016 年度の活動計画 <ul style="list-style-type: none"> ・ 投稿規定の変更なし ・ 研修会の企画 特になし ・ 大阪医科大学看護研究雑誌」第 7 巻の発刊
活動概要	委員会：計 4 回の委員会を開催し、下記活動についての審議・調整等を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 投稿規定の変更なし ・ 「大阪医科大学看護研究雑誌」第 7 巻の発行：総説 1 編、原著 1 編、研究報告 4 編、資料 12 編の計 18 編の論文と特別寄稿 1 編を掲載した。3 件の辞退があった。
評価	1. 効果が上がっている事項 査読体制の改良も行い、編集業務もややスムーズになった。 今年度は、題目登録と論文投稿の期限を投稿規定に沿ってほぼ順守することができた。 2. 改善すべき事項 今迄においても指摘されるように適切な査読者を確保することが今後の課題である。
将来に向けた発展方策・課題	1. 取り下げた論文の 4 編の内、3 編が査読中に取り下げられた。昨年度までにも指摘されていたが、題目登録の際に期限内での論文作成が可能かどうか十分な検討を要する。査読者に対する負担も考えて、編集者のほうで検討する必要もある。 2. 最終的に原稿制限枚数が大幅に超えた論文もあったので、投稿時に注意喚起する。最後に査読者は、出されてきた論文を理解できる人が好ましいが、学内のスタッフでは対応できないケースもあり、問題を積みのこした。

委員会名	物品管理委員会
目的	看護学部 of 授業運営に必要となる物品の管理を行う。
構成員	田中克子（委員長）、川北敬美、林文子
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業運営にかかる教育教材が有効に効果的に活用できるよう物品管理を行う。各領域が管理台帳に基づき物品管理を行う。 2. モデル人形、ベッド、車いす、ストレッチャーの点検を行う。 3. 実習室で使用する共通経費を概算し、限られた学校経費を有効に活用するための基礎資料とする。 4. 安全に配慮した物品管理の方法の見直しを行う。
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 5月から3月まで、計8回の委員会議を行った。 2. 本学物流センターの定数化運用システム（SPD）を活用し、共通物品の定数化運用から、1年間の予算として92,000円を導き出した。また、予算化に当たり、修理費改修費などは大学の物品管理費に包括した。 3. モデル人形、ベッド、車いす、ストレッチャーの点検を行い、有効に物品管理ができるようにした。 4. 災害などの安全対策として、更衣に使用するロッカーを実習室2の壁面に移動し、ロッカーの転倒防止棒を設置した。安全対策に関しては、本学の大学教育研究環境小委員会の指導の下に改善していく予定である。 5. 共通消耗品の定数見直しを行った。 6. 入館システム導入によって把握した実習室1、2の学生の実習室自己学習の利用状況は延4,350人であった。また、入室名簿から実習室3は54人であった。
評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 効果が上がっている事項 <ol style="list-style-type: none"> 1) 昨年度のラベル付物品による定数化運用によって在庫確認が確実に行え、デッドストックは減量し、適正に予算化ができた。 2) ベッド、モデル類等の点検を行うことによって教育教材を活用した授業が効率良く運営できるようになった。 2. 改善すべき事項 <ol style="list-style-type: none"> 1) 共通に使用する物品であるベッド、マットレス、ストレッチャー、車椅子等に関しては委員会で管理するが、新規購入、補修に関しても予算化が必要な場合も検討する。 2) 安全面から物品の移動や収納方法の改修も必要になる可能性がある。
将来に向けた発展方策・課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の内容を踏まえて、物品の保守点検、物品の購入に関して適正に行われるようにさらに運用方法の見直しが必要と考える。 2. 老朽化に伴い ベッドの補修、新規購入に関して、計画的な予算化の必要がある。 3. 学生の実習室の自己学習の使用状況に応じた実習室の整備を行っていきたいと考える。

委員会名	就職支援委員会
目的	看護学部の学生の就職や進路の支援を行う。
構成員	佐々木綾子（委員長）、土肥良子、横山浩誉、曾我浩美
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生に対する就職情報提供 2. 学生の就職活動力強化のためのサポート 3. 教員の就職活動支援力向上のためのサポート 4. 就職活動及び内定状況の把握 5. 卒業生と在校生の交流の機会を設けるための、情報提供の充実化 6. 来校人事担当者との対応による情報収集 7. 卒業生の動向に関する情報収集のあり方に関する検討 8. HP の更新
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生に対する就職情報提供の一環として、キャリアサポートルームの利用促進（学生への啓発、季節毎のポスターの入れ替え）、看護職員募集情報、パンフレットなどをキャリアサポートルーム内外に設置したパネルに掲示した。 2. 学生の就職活動力強化のためのサポートとして、第1回目は2016年6月9日、15日に本学附属病院人事企画研修課担当者、就職支援業者による「看護学生のための就職活動講座～入門編」を開催した。看護学部3年生80名、教員9名が参加した。第2回目は、2017年1月28日、本学附属病院担当者、第3期卒業生の看護師、保健師、助産師による講演及び質疑応答を開催した。看護学部3年生82名、2年生2名、卒業生約50名、教員5名さらに同日の午後には卒業生との合同昼食会、就職支援業者による履歴書及び面接対策の講演を実施し、本学オリジナル就活ガイドブックを配付した。 3. 教員の就職活動支援力向上のためのサポートでは、参加者12名に就職支援業者による履歴書及びその書き方、就職試験・面接対策の講演を実施した。 4. 就職活動及び内定状況の把握：就業調査票により内定状況把握し、教授会、学科会議で報告した。 5. 来校人事担当者との対応による情報収集応接録は委員が記載し、閲覧用に同室に保管した。 6. 卒業生の動向に関する情報収集のあり方について検討した。 7. 看護学部 HP にバナーを作成し、卒業生の就職状況（主な就職先）を掲載した。
評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 効果が上がっている事項 キャリアサポートルームの利用者は2016年度45名であり前年度より増加した。第1回ガイダンスは、学生が就職活動及びインターンシップや実際の就職活動に臨む前の準備や心構えについて知ることのできる貴重な機会となっていた。第2回ガイダンスは、初めての就職活動に不安を抱く学生がスキルを学ぶ有意義な機会となっていた。合同昼食会は在校生と卒業生との活発な交流の場となった。新たな活動として行った、教員の就職活動支援力向上のためのサポートでは、「履歴書添削のポイントがわかった」「実際に履歴書を添削する時期の直前であればより有難い」「今後の学生指導に非常に役立つ」などの意見があったことから概ねよい評価であった。学生を対象とした就職支援業者による履歴書添削では、添削を受けることで就職活動の安心につながっていた。 2. 改善すべき事項 キャリアサポートルーム利用者が増加中だが、低学年からの一層の活用が望まれる。就職ガイダンスに3年生は全員出席するよう事前の動機づけが必要である。第2回就職ガイダンス時の昼食会は、卒業生の数が年々増加していくことから、開催場所の検討が必要である。
将来に向けた発展 方策・課題	就職ガイダンスは、自主的な参加が望ましいが、参加への動機づけが当面必要と考えられる。さらに年に2回程度しか開催できないため、キャリアサポートルームのさらなる活用推進、教員の支援力や個別指導を充実させ、全員が志望する施設に採用されるように低学年から学生の意識を高める必要がある。

委員会名	国家試験対策委員会
目的	看護学部学生の看護師・保健師・助産師の国家試験受験の合格率向上を目指す。
構成員	土手友太郎（委員長）、カルデナス暁東、月野木ルミ、西頭知子、上山ゆりか、大橋尚弘
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 4年生全員合格を目指した国家試験受験対策指導の継続 2. 平成28年度国家試験対策の模試や対策講座の実施 3. 2年生及び3年生を対象とした講座及び模試の実施 4. 成績不振者対策、チューターへの学習指導の依頼 5. 平成29年度国家試験対策の企画及び予算案の作成
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員会の開催（計12回）と主要議題 国家試験対策のスケジュールと運用について確認と徹底を図った。模試の結果が返却される度に成績の分析、成績不振者の選定をした。看護師模試での成績下位の約20名は、対策講座受講時に前方に座らせて学習意欲を刺激させるように図り、チューターに学習指導を強化してもらった。 2. 模擬試験、対策講座などの年間実施状況 看護師対策としては、主として東京アカデミーに依頼して、模試5回、講座・傾向分析42回を実施した。また、保健師対策としては、模試3回、講座18回、助産師対策としては、模試2回、セミナー2回を実施した。
評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 効果が上がっている事項 第106回看護師国家試験は受験者93名中合格者91名（97.8%）で全体の合格率（88.5%）は上回っていたものの全員合格には至らなかった。第103回保健師国家試験は受験者33名中合格者33名（100%）、第100回助産師国家試験は受験者7名中合格者7名（100%）であった。成績不良な学生に対し、委員以外のチューター教員にも、熱心に指導に取り組んで頂いたことが功を奏した。 2. 改善すべき事項 講師の都合などの理由により学外会場での受講や模試受験を増やしたが、先述の前方指定席についてもそれらに対し学生や教員で賛否が分かれた。また講座の時期や内容について学生のニーズに合わない部分もあった。
将来に向けた発展方策・課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 次年度は会場をすべて本学とし、講座や模試の日程も学生が最大限出席できるよう調整する。 2. 講座内容も2017年国家試験の出題傾向の変化に対応した対策を検討する。 成績不良な学生に対し、講座内容や受講時の席順等について検討し工夫していく。大学側が講じる試験対策のみでは対処できないような個々の事情もあり、チューターへの過大な負担にならないよう配慮すべきである。

委員会名	年報編集委員会
目的	看護学部・看護学研究科の年報編集・印刷に関わる事項の調整
構成員	鈴木久美（委員長）、津田泰宏、草野恵美子、大橋尚弘、中野恵梨子（看護学事務課）
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 27 年度年報の取り纏め・発行 2. 平成 27 年度年報の HP 上での公開 3. 平成 28 年度年報作成のための原稿依頼
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員会の開催 5 回の委員会を開催した。 2. 2015 年（平成 27 年度）年報の発行 <ol style="list-style-type: none"> 1) 平成 28 年 7 月 31 日に年報を発刊した。 2) 冊子は 20 部作成し関連部署に配布した。 3) 看護学部教員へは HP 上で PDF を公開した。 3. 2016 年（平成 28 年度）年報作成について <ol style="list-style-type: none"> 1) 原稿の執筆要領の見直しを行い、見本を呈示した。 2) 2016 年度年報作成のための原稿を依頼した。
評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 効果が上がっている事項 年報の PDF を HP に掲載したことにより、本学看護学部及び看護学研究科の教育研究活動について公開することができた。 2. 改善すべき事項 特記なし
将来に向けた発展方策・課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2016 年度年報の発行

委員会名	広報委員会
目的	看護学部広報活動のビジョンを示しながら、入試・広報部、各種委員会と連携を図り、受験者を募集する。
構成員	吉田久美子（委員長）、川北敬美、佐野かおり、上山ゆりか、山埜ふみ恵、林文子
活動計画	1. オープンキャンパス企画・運営 2. 看護学部案内書の企画・作製 3. 進学ガイダンス出向の調整・実施 4. 看護学部案内書サブツールの企画・作製 5. 学校訪問の調整・実施の計画
活動概要	1. 委員会の開催 定例会議 6 回、広報入試部との合同会議 1 回の計 7 回を開催した。 2. オープンキャンパス 3 回・入試相談会 1 回を企画運営した。 参加者は、7 月 17 日（日）405 名、8 月 6 日（土）213 名、8 月 7 日（日）372 名であった。入試・相談会の参加者は、9 月 11 日（日）161 名、相談者は 16 組 25 名であった。 3. 進学ガイダンス出向の調整・実施 「医歯薬・看護・医療・福祉・医療事務系会場形式進学相談会」委員 2 名、参加者 18 組 「夢ナビライブ」瓜崎講師、240 名 「看護医療系学校合同説明会」委員 2 名、参加者 16 組 「第 11 回高校生のための大学フェア大阪」鈴木教授 「看護系大学フェア 2016 大学進学相談会」委員 2 名、参加者 32 組 4. 看護学部案内書サブツールの企画・作製 地域包括ケアを支える看護職を主としたサブツールを作製した。 5. 学校訪問の調整・実施の計画 今年度は入試広報部のスタッフが進学校にしぼって訪問し、教員の訪問はなかった。
評価	1. 効果が上がっている事項 入試・広報部と協力し、委員会メンバーを中心に広報が円滑に実施されるようになった。オープンキャンパスでは、学生が主体性を持って進行することで受験者数に反映することに繋がっている。 2. 改善すべき事項 学外への看護学部の教育・研究の取り組みを周知し、受験者を募集する活動が不足していた。
将来に向けた発展方策・課題	オープンキャンパスにおいて企画段階から学生が主体的に参加するチームを作成し活気のあるものをめざす。看護学の教育理念や国際化などに向けた新たな取り組みなどを周知し、学外への広報活動を行い、受験者獲得を目指す。

4. 大学院委員会

委員会名	大学院委員会
目的	本委員会は、看護学研究科の管理・運営を円滑に進めるために設けられ、大学院生の教育、研究、学位審査、学生生活に関する事柄、また、入学試験等に関する協議を行い、必要事項を審議事項、報告事項として教授会に提議する。
構成員	荒木孝治（委員長）、泊祐子、道重文子、赤澤千春、鈴木久美
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新分野設置構想の推進 2. 教育活動全般に関する自己点検と教務のシステムの充実 3. 山西医科大学学生の受け入れと交流活動の推進 4. 学習環境の整備、交流会の開催など学生サービスの充実
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学院生との交流会（アンケートへの回答の機会を含む）の実施（5月） 2. 平成28年度入試説明・個別相談会の実施（6月） 3. 海外からの研修生に関する申し合わせ事項の決定（7月） 4. 前期課程教育研究コースでの在宅分野及び老年分野、高度実践コースのがん分野、及び新科目（看護哲学）の設置に関する議論（7月～）と理事会への答申 5. 授業評価の書式の改定（平成29年度から新書式にて実施） 6. 入学試験での可否基準に関する検討及び前期課程の受験者減に対する対策の検討（平成29年度の継続審議事項） 7. 大学院の科目を担当できる基準の策定（前期課程及び後期課程） 8. 特別研究を担当できる基準の策定（前期課程及び後期課程） 9. 修士論文計画発表会、博士論文計画発表会の実施 10. 修士論文発表会、博士論文発表会の実施 11. 学生生活ガイドの作成 12. 定年退職教員の特別継続任用（嘱託教員）に関する承認 13. 平成28年度入学予定者の補習授業の実施（3月） 14. 研究用図書（和書及び洋書）の新規購入
評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 効果が上がっている事項 平成30年度から教育研究コースにて在宅分野、老年分野、高度実践コースにてがん分野の設置が認められ準備が進行している件 2. 改善すべき事項 修士の受験生の減少に伴う広報を含め現在の入学試験のあり方の見直しの件
将来に向けた発展方策・課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入学試験日程における2次募集の検討 2. 教員と事務が一体となった大学院の運営力の強化 3. 研究の質の向上のためのFD等の推進

5. 看護学部教育活動

1) 授業科目一覧

2015・2016 年度入学生（新1・2年生）用

区分	授業科目	助 ★ 保 ○ 養 ★	講義 演習 実習	単 位 数	開講期（必修● 選択○ 自由◇）								卒業 要件 単位 数 127 単位 以上
					第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎 科目	人間 理 解	心理学	講義	2	●								↑ 19単位 以上 ●必修科目12単位 ○選択科目7単位以上 (社会理解から2単位以上含まれていること) ↓
		生物学	講義	2	○								
		化学	講義	2	○								
		物理学	講義	1		○							
		暮らしの中の倫理と法律	講義	1	○								
		大阪を学ぶ	講義	1		○							
		哲学	講義	1		○							
		暮らしと文学	講義	2	○								
		教育学	講義	2	○								
		体育Ⅰ	* 演習	1	○								
		体育Ⅱ	* 演習	1		○							
		セクシュアリティと看護	★ 講義	1			○						
		医学概論	講義	1		○							
	社会 理 解	キャリアマネジメント	講義	1	●								
		健康科学概論	講義	2	●								
		情報リテラシー	演習	1	●								
		データ処理演習	* 演習	1				○					
		統計学	講義	2		●							
		日本国憲法	* 講義	2	○								
		暮らしと社会・環境	講義	2	○								
		暮らしと経済	講義	2	○								
		暮らしと安全・危機管理	講義	2	○								
		異 文 化 理 解	英語Ⅰ（英語を聞く）	講義	1	●							
	英語Ⅱ（英語で話す）		講義	1		●							
	英語Ⅲ（英語で読む・書く）		講義	1			●						
	英語Ⅳ（英語を豊かに）		講義	1				●					
	国際言語文化		講義	2	○								
	医工薬連環科学遠隔講座	講義	—	◇									
基礎科目必修単位数				12	7	3	1	1	0	0	0	0	
専門 基 礎 科 目	人 間 理 解	人間関係論	講義	1	●								↑ 30単位 以上 ●必修科目27単位 ○選択科目3単位以上
		からだの仕組みと働きⅠ（基礎）	講義	2	●								
		感染と免疫	講義	1	●								
		からだと栄養	講義	2		●							
		からだの仕組みと働きⅡ（発展）	講義	2		●							
		こころの仕組みと働き	講義	1		●							
		フィジカルエグザミネーション	演習	1		●							
		からだづくりの働き	講義	2			●						
		病気の成り立ち	講義	2			●						
		病気の診断	講義	2			●						
		病気の治療	講義	2				●					
		食生活論	講義	1					○				
		遺伝とカウンセリング	★ 講義	1							○		
		リプロダクションと看護	★ 演習	1			○						

区分		授 業 科 目	助★ 保○ 差★	講義 演習 実習	単 位 数	開講期 (必修● 選択○ 自由◇)								卒業 要件 単 位 数 127 単位 以上
						第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門 基礎 科目	社会	医療人マインド		演習	1	●								↓
		保健医療福祉概論		講義	2		●							
	理	公衆衛生学・疫学		講義	2			●						
		地域救命救急		講義	1					○				
	解	ヘルスプロモーション論		講義	1					○				
		医療倫理学		講義	1					●				
	異文化理解	リスクマネジメント		講義	1					●				
		医療英語		演習	1					●				
		原著講読		演習	1							●		
		異文化看護入門		演習	1					○				
専門基礎科目必修単位数				27	5	8	8	2	3	0	1	0		
専門 科目	看護の 基礎 盤	看護学概論		講義	2	●							↑ 78単位 以上 ●必修科目72単位 ○選択科目6単位以上 (看護師国家試験受験資格のみ希望の場合は、看護実践発展実習2単位が含まれていること)	
		日常生活援助技術		演習	3		●							
		基礎看護学実習Ⅰ		実習	1		●							
		看護アセスメント		演習	1			●						
		治療過程に伴う援助技術		演習	2			●						
		基礎看護学実習Ⅱ		実習	2			●						
		看護管理		講義	1							●		
		看護教育		講義	1						●			
	生活	老年看護学概論		講義	2			●						
		老年看護学援助論		演習	1			●						
		老年看護学援助方法		演習	1				●					
		老年保健看護学実習		実習	2					●				
		老年看護学実習		実習	2					●				
		支援	母性看護学概論		講義	2		●						
			母性看護学援助論		演習	1			●					
			母性看護学援助方法		演習	1				●				
	母性看護学実習			実習	2					●				
	療養	成人看護学概論		講義	2		●							
		急性期成人看護学援助論		演習	1			●						
		急性期成人看護学援助方法		演習	1				●					
		急性期成人看護学実習		実習	2					●				
		慢性期成人看護学援助論		演習	1			●						
		慢性期成人看護学援助方法		演習	1			●						
		慢性期成人看護学実習		実習	2					●				
		成人保健看護学実習		実習	1					●				
		支	小児看護学概論		講義	2			●					
			小児看護学援助論		演習	1			●					
			小児看護学援助方法		演習	1				●				
			小児看護学実習		実習	2					●			
	援	精神看護学概論		講義	2			●						
		精神看護学援助論		演習	1			●						
		精神看護学援助方法		演習	1				●					
		精神看護学実習		実習	2					●				

区分	授 業 科 目	助★ 保○ 養★	講義 演習 実習	単 位 数	開講期 (必修● 選択○ 自由◇)								卒業 要件 単 位 数
					第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専 門 科 目	地 域 支 援	在宅看護学概論	講義	2			●						127 単位 以上 78単位 以上 ○●必修科目72単位 選択科目6単位以上 (看護師国家試験受験資格のみ希望の場合は、看護実践発展科目から2単位以上と看護実践発展実習2単位が含まれていること) ↓
		在宅看護学援助論	演習	1				●					
		在宅看護学援助方法	演習	1					●				
		在宅看護学実習	実習	2						●			
		公衆衛生看護学概論	講義	2			●						
		公衆衛生看護学活動論	講義	2				●					
		公衆衛生看護学活動方法	◎講義	1					○				
	発 展 課 程 実 践 目 録	公衆衛生看護学実習Ⅰ	実習	1							●		
		看護と生体診断法	演習	1							○		
		先端医療に伴う看護技術	演習	1							○		
		医療カウンセリング	演習	1							○		
	科 保 健 目 師	緩和ケアと代替・補完療法	演習	1							○		
		公衆衛生看護学管理論	◎講義	2					○				
		公衆衛生看護学演習	◎演習	1								◇	
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	◎実習	4								◇	
	助 産 師 科 目	助産学概論	★講義	2				○					
		助産診断・技術学Ⅰ	★演習	1					○				
		助産診断・技術学Ⅱ	★演習	3								◇	
		助産管理	★講義	1								◇	
		助産学実習	★実習	8								◇	
	統 合 目	家族看護学	講義	2						●			
		チーム医療論	講義	1								●	
		看護実践と理論の統合	演習	2							●		
		看護研究法	講義	1								●	
		卒業演習	演習	3								●	
		災害看護論	講義	1						○			
		広域統合看護学実習	実習	2								●	
		看護実践発展実習	実習	2								○	
専門科目必修単位数				72	2	8	16	9	8	19	4	6	
必修単位数合計				111	14	19	25	12	11	19	5	6	
履修登録できる単位数の上限				166	50		42		39		35		
★助産師国家試験受験資格必修科目 ◎保健師国家試験受験資格必修科目 *養護教諭二種免許申請希望の場合の必修科目													

2014 年度入学生（新 3 年生）用

区分	授 業 科 目	助 ★ 保 ○ 養 ★	講義 演習 実習	単 位 数	開講期（必修● 選択○ 自由◇）								単 位 数	卒業 要件
					第1学年		第2学年		第3学年		第4学年			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎科目	人間理解	心理学	講義	2	●								19単位以上 ○●必修科目12単位 ○選択科目7単位以上 （社会理解から2単位以上含まれていること）	↑ ↓
		生物学	講義	2	○									
		化学	講義	2	○									
		物理学	講義	1		○								
		くらしの中の倫理と法律	講義	1	○									
		大阪を学ぶ	講義	1		○								
		哲学	講義	1		○								
		くらしと文学	講義	2	○									
		教育学	講義	2			○							
		体育Ⅰ	* 演習	1	○									
		体育Ⅱ	* 演習	1		○								
		セクシュアリティと看護	☆ 講義	1			○							
		医学概論		講義	2		○							
		社会理解	キャリアマネジメント		講義	1	●							
	健康科学概論			講義	2	●								
	情報リテラシー			演習	1	●								
	データ処理演習		* 演習	1				○						
	統計学			講義	2		●							
	日本国憲法		* 講義	2	○									
	くらしと社会・環境			講義	2	○								
	くらしと経済			講義	2	○								
	くらしと安全・危機管理			講義	2			○						
	異文化理解		英語Ⅰ（英語を聞く）		講義	1	●							
		英語Ⅱ（英語で話す）		講義	1		●							
		英語Ⅲ（英語で読む・書く）		講義	1			●						
		英語Ⅳ（英語を豊かに）		講義	1				●					
		国際言語文化		講義	2	○								
		医工薬連環科学遠隔講座		講義	—	◇								
基礎科目必修単位数				12	7	3	1	1	0	0	0	0		
専門基礎科目	人間理解	人間関係論		講義	1	●							29単位以上 ○●必修科目26単位 ○選択科目3単位以上	↑ ↓
		からだの仕組みと働きⅠ（基礎）		講義	2	●								
		感染と免疫		講義	1	●								
		からだと栄養		講義	2		●							
		からだの仕組みと働きⅡ（発展）		講義	2		●							
		こころの仕組みと働き		講義	1		●							
		フィジカルエグザミネーション		演習	1		●							
		からだとくすりの働き		講義	2			●						
		病気の成り立ち		講義	2			●						
		病気の診断		講義	2			●						
		病気の治療		講義	2				●					
		食生活論		講義	1					○				
		遺伝とカウンセリング	☆ 講義	1							○			
		リプロダクションと看護	☆ 演習	1			○							

区分		授 業 科 目	助 ★ 保 ○ 養 *	講義 演習 実習	単 位 数	開講期 (必修● 選択○ 自由◇)								卒業 要件 単 位 数 127 単位 以上	
						第1学年		第2学年		第3学年		第4学年			
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専 門 基 礎 科 目	社 会 理 解 異 文 化 解	保健医療福祉概論		講義	2		●							↓	
		公衆衛生学・疫学		講義	2			●							
		地域救命救急		講義	1					○					
		ヘルスプロモーション論		講義	1					○					
		医療倫理学		講義	1					●					
		リスクマネジメント		講義	1					●					
		医療英語		演習	1					●					
		原著講読		演習	1							●			
専門基礎科目必修単位数					26	4	8	8	2	3	0	1	0		
専 門 基 礎 科 目	看 護 の 基 盤	看護学概論		講義	2	●								↑ 79単位 以上 ● 必修科目72単位 ○ 選択科目7単位以上 (看護師国家試験受験資格のみ希望の場合は、看護実践発展科目から2単位以上と看護実践発展実習2単位が含まれていること)	
		日常生活援助技術		演習	3		●								
		基礎看護学実習Ⅰ		実習	1		●								
		看護アセスメント		演習	1			●							
		治療過程に伴う援助技術		演習	2			●							
		基礎看護学実習Ⅱ		実習	2			●							
		看護管理		講義	1								●		
		看護教育		講義	1							●			
	生 活 支 援	老年看護学概論		講義	2			●							
		老年看護学援助論		演習	1				●						
		老年看護学援助方法		演習	1					●					
		老年保健看護学実習		実習	2						●				
		老年看護学実習		実習	2						●				
		母性看護学概論		講義	2		●								
		母性看護学援助論		演習	1				●						
		母性看護学援助方法		演習	1					●					
	療 養 支 援	母性看護学実習		実習	2						●				
		成人看護学概論		講義	2		●								
		急性期成人看護学援助論		演習	1				●						
		急性期成人看護学援助方法		演習	1					●					
		急性期成人看護学実習		実習	2						●				
		慢性期成人看護学援助論		演習	1			●							
		慢性期成人看護学援助方法		演習	1				●						
		慢性期成人看護学実習		実習	2						●				
	目 支 援	成人保健看護学実習		実習	1						●				
		小児看護学概論		講義	2			●							
		小児看護学援助論		演習	1				●						
		小児看護学援助方法		演習	1					●					
		小児看護学実習		実習	2						●				
		精神看護学概論		講義	2			●							
		精神看護学援助論		演習	1				●						
		精神看護学援助方法		演習	1					●					
		精神看護学実習		実習	2						●				

区分	授 業 科 目	助★ 保○ 養★	講義 演習 実習	単 位 数	開講期 (必修● 選択○ 自由◇)								卒業 要件 単 位 数	
					第1学年		第2学年		第3学年		第4学年			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専 門 科 目	地 域 支 援	在宅看護学概論	講義	2			●						127 単位 以上 ○●必修科目72単位 以上 ○選択科目7単位以上 (看護師国家試験受験資格のみ希望の場合は、看護実践発展実習2単位が含まれていること) ↓	
		在宅看護学援助論	演習	1				●						
		在宅看護学援助方法	演習	1					●					
		在宅看護学実習	実習	2						●				
		公衆衛生看護学概論	講義	2			●							
		公衆衛生看護学活動論	講義	2				●						
		公衆衛生看護学活動方法	◎講義	1					○					
	発 展 課 目	公衆衛生看護学実習Ⅰ	実習	1							●			
		看護と生体診断法	演習	1							○			
		先端医療に伴う看護技術	演習	1							○			
		医療カウンセリング	演習	1							○			
	科 保 健 目 師	緩和ケアと代替・補完療法	演習	1							○			
		公衆衛生看護学管理論	◎講義	2					○					
		公衆衛生看護学演習	◎演習	1								◇		
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	◎実習	4								◇		
	助 産 師 科 目	助産学概論	★講義	2				○						
		助産診断・技術学Ⅰ	★演習	1					○					
		助産診断・技術学Ⅱ	★演習	3							◇			
		助産管理	★講義	1							◇			
		助産学実習	★実習	8								◇		
	統 合	家族看護学	講義	2					●					
		チーム医療論	講義	1							●			
		看護実践と理論の統合	演習	2						●				
		看護研究法	講義	1							●			
		卒業演習	演習	3								●		
		災害看護論	講義	1					○					
		異文化看護入門	演習	1					○					
		広域統合看護学実習	実習	2								●		
		看護実践発展実習	実習	2							○			
専門科目必修単位数				72	2	8	16	9	8	19	4	6		
必修単位数合計				110	13	19	25	12	11	19	5	6		
履修登録できる単位数の上限				168	50		44		39		35			
★助産師国家試験受験資格必修科目 ◎保健師国家試験受験資格必修科目 *養護教諭二種免許申請希望の場合の必修科目														

2013 年度入学生（新 4 年生）用

区分	授 業 科 目	助 ★ 保 ○ 差 ★	講義 演習 実習	単 位 数	開講期（必修● 選択○ 自由◇）								卒業 要件 単位 数	
					第1学年		第2学年		第3学年		第4学年			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎科目	人間	心理学	講義	2	●								127単位以上 ●必修科目12単位 ○選択科目7単位以上（社会理解から2単位以上含まれていること）	
		生物学	講義	2	○									
		化学	講義	2	○									
		物理学	講義	1		○								
		くらしの中の倫理と法律	講義	1	○									
		大阪を学ぶ	講義	1		○								
		哲学	講義	1		○								
		くらしと文学	講義	2	○									
		教育学	講義	2					○					
		体育Ⅰ	* 演習	1	○									
		体育Ⅱ	* 演習	1		○								
		セクシュアリティと看護	★ 講義	1			○							
		医学概論	講義	2		○								
		社会理解	キャリアマネジメント	講義	1	●								
	健康科学概論		講義	2	●									
	情報リテラシー		演習	1	●									
	データ処理演習		* 演習	1							○			
	統計学		講義	2		●								
	日本国憲法		* 講義	2	○									
	くらしと社会・環境		講義	2	○									
	くらしと経済		講義	2	○									
	くらしと安全・危機管理		講義	2			○							
	異文化理解		英語Ⅰ（英語を聞く）	講義	1	●								
			英語Ⅱ（英語で話す）	講義	1		●							
			英語Ⅲ（英語で読む・書く）	講義	1			●						
			英語Ⅳ（英語を豊かに）	講義	1				●					
			国際言語文化	講義	2	○								
		医工薬連環科学遠隔講座	講義	—	◇									
基礎科目必修単位数				12	7	3	1	1	0	0	0	0		
専門基礎科目	人間	人間関係論	講義	1	●								29単位以上 ●必修科目26単位 ○選択科目3単位以上	
		からだの仕組みと働きⅠ（基礎）	講義	2	●									
		感染と免疫	講義	1	●									
		からだと栄養	講義	2		●								
		からだの仕組みと働きⅡ（発展）	講義	2		●								
		こころの仕組みと働き	講義	1		●								
		フィジカルエグザミネーション	演習	1		●								
		からだづくすりの働き	講義	2			●							
		病気の成り立ち	講義	2			●							
		病気の診断	講義	2			●							
		病気の治療	講義	2				●						
		食生活論	講義	1					○					
		遺伝とカウンセリング	★ 講義	1							○			
		リプロダクションと看護	★ 演習	1			○							

区分	授 業 科 目	助★ 保○ 養★	講義 演習 実習	単 位 数	開講期 (必修● 選択○ 自由◇)								卒業 要件 単位 数 127 単位 以上
					第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専 門 基 礎 科 目	社会 理 解	保健医療福祉概論	講義	2		●							↓
		公衆衛生学・疫学	講義	2			●						
		地域救命救急	講義	1					○				
		ヘルスプロモーション論	講義	1					○				
		医療倫理学	講義	1					●				
		リスクマネジメント	講義	1					●				
		医療英語	演習	1					●				
	原著講読	演習	1							●			
専門基礎科目必修単位数				26	4	8	8	2	3	0	1	0	
専 門 科 目	看護 の 基 盤	看護学概論	講義	2	●								↑ 79単位 以上 ○●必修科目72単位 ○選択科目7単位以上 (看護師国家試験受験資格のみ希望の場合は、看護実践発展科目から2単位以上と看護実践発展実習2単位が含まれていること)
		日常生活援助技術	演習	3		●							
		基礎看護学実習Ⅰ	実習	1		●							
		看護アセスメント	演習	1			●						
		治療過程に伴う援助技術	演習	2			●						
		基礎看護学実習Ⅱ	実習	2			●						
		看護管理	講義	1								●	
		看護教育	講義	1							●		
	生 活 支 援	老年看護学概論	講義	2			●						
		老年看護学援助論	演習	1				●					
		老年看護学援助方法	演習	1					●				
		老年保健看護学実習	実習	2						●			
		老年看護学実習	実習	2						●			
		母性看護学概論	講義	2		●							
		母性看護学援助論	演習	1				●					
		母性看護学援助方法	演習	1					●				
	療 養 支 援	母性看護学実習	実習	2						●			
		成人看護学概論	講義	2		●							
		急性期成人看護学援助論	演習	1				●					
		急性期成人看護学援助方法	演習	1					●				
		急性期成人看護学実習	実習	2						●			
		慢性期成人看護学援助論	演習	1			●						
		慢性期成人看護学援助方法	演習	1				●					
		慢性期成人看護学実習	実習	2						●			
		成人保健看護学実習	実習	1						●			
		小児看護学概論	講義	2			●						
		小児看護学援助論	演習	1				●					
		小児看護学援助方法	演習	1					●				
		小児看護学実習	実習	2						●			
		精神看護学概論	講義	2			●						
		精神看護学援助論	演習	1				●					
		精神看護学援助方法	演習	1					●				
	精神看護学実習	実習	2						●				

区分		授 業 科 目	助★ 保○ 養★	講義 演習 実習	単 位 数	開講期 (必修● 選択○ 自由◇)								単 位 数 本 業 要 件	
						第1学年		第2学年		第3学年		第4学年			
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専 門 科 目	地 域 支 援	在宅看護学概論		講義	2			●						127 単位 以上 79単位 以上 ○●必修科目72単位 選択科目7単位以上 (看護師国家試験受験資格のみ希望の場合は、看護実践発展科目から2単位以上と看護実践発展実習2単位が含まれていること) ↓	
		在宅看護学援助論		演習	1				●						
		在宅看護学援助方法		演習	1					●					
		在宅看護学実習		実習	2						●				
		公衆衛生看護学概論		講義	2			●							
		公衆衛生看護学活動論		講義	2				●						
		公衆衛生看護学活動方法	◎	講義	1					○					
	発 展 護 士 実 践 目 録	公衆衛生看護学実習Ⅰ		実習	1							●			
		看護と生体診断法		演習	1							○			
		先端医療に伴う看護技術		演習	1							○			
		医療カウンセリング		演習	1							○			
		緩和ケアと代替・補完療法		演習	1							○			
		公衆衛生看護学管理論	◎	講義	2					○					
		公衆衛生看護学演習	◎	演習	1								◇		
	科 保 健 目 録	公衆衛生看護学実習Ⅱ	◎	実習	4								◇		
		助 産 師 科 目	助産学概論	★	講義	2				○					
			助産診断・技術学Ⅰ	★	演習	1					○				
			助産診断・技術学Ⅱ	★	演習	3							◇		
			助産管理	★	講義	1							◇		
	助産学実習		★	実習	8								◇		
	目 統 合	家族看護学		講義	2					●					
		チーム医療論		講義	1							●			
		看護実践と理論の統合		演習	2						●				
		看護研究法		講義	1							●			
		卒業演習		演習	3								●		
		災害看護論		講義	1					○					
		異文化看護入門		演習	1					○					
		広域統合看護学実習		実習	2								●		
		看護実践発展実習		実習	2							○			
専門科目必修単位数					72	2	8	16	9	8	19	4	6		
必修単位数合計					110	13	19	25	12	11	19	5	6		
履修登録できる単位数の上限					169	50		42		41		36			
★助産師国家試験受験資格必修科目 ◎保健師国家試験受験資格必修科目 *養護教諭二種免許申請希望の場合の必修科目															

2) 各領域の教育活動

領域名	基礎看護学
担当教員	道重文子、小林道太郎、川北敬美、土肥美子、原明子（海外出張中） 福田政恵（非常勤）、喜多ひとみ（非常勤）
担当科目	くらしの中の倫理と法律、哲学、キャリアマネジメント、国際言語文化、原著講読、看護学概論、日常生活援助技術、看護アセスメント、治療過程に伴う援助技術、看護管理、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、卒業演習、広域統合看護学実習
現状の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・くらしの中の倫理と法律、哲学では、基本的な事項を、医療・看護との関連も含めて講義した。国際言語文化では、ドイツ語の入門を行い、ドイツ等の異文化圏の歴史・文化を論じた。原著講読では英語の看護学論文を読んだ。 ・看護アセスメントでは直腸がん（StageⅡ）で腹腔鏡下にて低位前方切除術を受けた事例を用いて NANDA-I の枠組みを使い看護過程の展開方法を教授した。 ・日常生活援助技術、治療過程に伴う援助技術では、附属病院看護部の臨床指導者等が毎回演習に2名参加しユニフィケーションを行った。 ・基礎看護学実習Ⅰでは、基礎看護学領域教員6名で指導に当たった。 ・基礎看護学実習Ⅱでは、2グループに分け、8病棟にて、9月と2月に学生は1週間ずつ実習した。5名の教員とTA1名で指導した。 ・卒業演習は専任教員が3～4名の学生を担当し、1名1テーマで卒業論文を作成した。全員がポスターを作成し発表を行った。 ・広域統合看護学実習は、彩都友誼会病院またはガラシア病院の緩和ケア病棟、第二東和会病院の回復期リハ病棟で実施した。実習終了後にそれぞれの実習内容に則した事例を作成し OSCE を実施した。
点検評価	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くらしの中の倫理と法律、哲学、国際言語文化では、関連事項への学生の関心を喚起することができた。原著講読では英語論文を読む基礎ができた。 ・1年後期の日常生活援助技術と2年前期の治療過程に伴う援助技術の演習を通して附属病院の臨床指導者らとユニフィケーションをはかることができた。学生は、臨床指導者から現場での例なども聞き今後の学習への動機づけになっている。4年生では広域看護学実習終了後の OSCE により、各自が今後の課題を確認することができた。 <p>2. 改善すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎看護学実習Ⅱでは、アセスメント力や看護ケアの実践で個人差が出ている。実習に学内演習での学びが反映されていない学生がいるため、アセスメントの段階での指導強化を図り確認を行っていく。
将来に向けた発展方策・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床指導者らと指導方法の共有化をはかり、看護職としての態度教育を行う。 ・基礎看護技術教育、高い実践能力を身に付けられる方法や学生個々の看護技術能力を確認するため、4年生のみならず2年生における OSCE を検討していく。

領域名	急性期成人看護学
担当教員	赤澤千春、寺口佐與子、肥後雅子
担当科目	成人看護学概論、急性期成人看護援助論、急性期成人看護学援助方法、急性期成人看護学実習、統合実習、卒業演習、災害看護論
現状の説明	<p>学生たちは1回生時に成人看護概論で成人看護一般の対象者と成人看護の特徴を学ぶ。急性期に関する内容は健康破綻をする対象、それに伴う心理社会的特徴を学び、2回生の急性期成人看護援助論で「生命の危機的状況にある対象」の身体的心理社会的な看護問題とその介入について学ぶ。3回生前期に急性期成人看護学援助方法で、これまでの既習の知識を活用し、事例をもとに急性期にある患者（手術を受ける患者）の看護計画を立案し、周術期に沿ってロールプレイ演習を行いながら、具体的な看護介入方法を学ぶ。後期に急性期看護学実習で実際手術を受ける患者を通して、生命の危機的状況にある対象についての看護計画を立案し、実行し、評価するために必要な基礎的知識・技術・態度を習得する。4回生の統合実習では1～3回生までの知識と技術を統合させるために学生自身が実習計画を立て、救急看護について学んだ。興味のあるテーマについて卒業演習に取り組み、まとめて論文とし、発表まで実施できた。</p>
点検評価	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>急性期領域の核となる「生命の危機的状況」にある対象について、講義、演習、実習と一貫した内容を教授することで、学生も急性期の特徴を理解しつつ急性期看護の対象、アセスメント、看護ケアを学んでいる。</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>1) 1、2回生で「生命の危機的状況」ということが理解できなければ3回生以降の演習や実習での急性期の看護過程の展開は難しいと感じてしまい、やる気が出さなくなる可能性があるため、根気よく指導する必要がある。</p> <p>2) 演習の看護問題抽出を多角的にとらえることができるように、必要な基礎知識とその応用ができるように指導していく必要がある。</p> <p>3) 実習では「生命の危機的状況」を強調した指導や、患者入院期間の短縮に伴い、心理社会的側面からの看護問題の抽出や介入が困難な学生も見受けられ、早期から身体的心理社会的側面を統合することを指導することが必要であった。</p>
将来に向けた発展方策・課題	<p>学生が主体的に目標設定ができ、その目標に向かって取り組んでいけるように方向を示すことができるようにしたい。自ら考えるという姿勢を持つことが大事であるので、演習、実習ではできるだけ学生に「語らせる」ことを念頭にに関わり、「考える」「考え続ける」ということを刺激することを意識した内容を取り入れることにする。</p>

領域名	慢性期成人看護学領域
担当教員	田中克子、カルデナス暁東
担当科目	成人看護学概論、慢性期成人看護学援助論、慢性期成人看護学援助方法、慢性期成人看護学実習、成人保健看護学実習、広域統合看護学実習、卒業演習
現状の説明	<p>「概論」では、後続する援助論、援助方法、実習に連動できるように健康レベルに対応した成人看護学の概要を組み入れ前半終了後まとめをして学習の理解度を確認して後半の授業に臨んだ。「援助論」では、病期の特徴と発症頻度を考慮して代表的な疾患を例に挙げ、教科書の理解を中心にして、病気の成因と看護援助の関係が理解できるように工夫した。「援助方法」では、教員が作成した事例展開と看護援助方法の演習資料を用い、講義、演習を行った。事例展開、技術演習に関して、考え方の基本を理解できるように各個人の事前学習を踏まえて、対象者の健康レベルに合わせて援助方法を考え、技術演習も実施し評価できるように、学生の創意工夫の視点を重視した。「領域実習」は代謝・内分泌系、内科系混合、呼吸器疾患系の4つの病棟で、原則として一人の受け持ち患者を担当し、様々な健康レベルのひととその家族に対する系統的な看護過程の展開を通じて、慢性期看護学の特質を考察できることを重視した実習を展開した。「広域統合実習」は、学生の各自の実習テーマに応じて、大阪医科大学附属病院、高槻赤十字病院（緩和ケア病棟）、徳洲会沖永良部島病院で行った。「卒業演習」は、学生がテーマに応じて文献検索の論文を作成した。「成人保健看護学実習」は、地域に住む様々な健康レベルの人々とその家族に対する看護援助を学ぶことを目的に、外来部門やフィールドワークを中心に主体的に実習の展開を行った。</p>
点検評価	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>独自に作成した演習資料に基づき、学習課題、講義、実技演習、実習と体系化したことは学習を創意工夫し、深める上で効果があったと考える。「成人保健看護学実習」では学生に主体的にテーマを選定させ、体験学習、フィールドワークを通じて地域における生活者の看護援助を具体的に考察することができた。</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>「援助論」「援助方法」は、テーマと授業時間配分が十分とは言えないので、根拠を基に考えるという点において、学生の事前学習、事後学習は必須である。特に「実習」は、学生個々に対応して指導を行うことも必要である。特に、個別指導を必要とする学生への関わりには、別途人員確保が必要であるので、今後も継続して検討する必要がある。</p>
将来に向けた発展方策・課題	<p>毎回の授業を大事にして、関連知識・技術を統合的に活用して、病気をもつ人とその家族の看護援助について系統的に思考を深め、その特質を理解できるようにする。学生の体験を増やすような演習・実習展開方法の工夫が必要である。</p>

領域名	老年看護学
担当教員	久保田正和、横山浩誉、上山ゆりか
担当科目	老年看護学概論、老年看護学援助論、老年看護学援助方法、老年保健看護学実習、老年看護学実習、広域統合看護学実習、卒業演習
現状の説明	<p>老年看護学概論（2回生前期・2単位・講義）：老年期を健やかにその人らしく生きることを健康と生活の視点から支援する老年看護の基盤を講義した。老年看護学援助論（2回生後期・1単位・演習）：高齢者の健康障がい、生活行動と関連させアセスメントが出来るように老年期の基礎的な知識及び援助の根拠、看護過程の特徴について論じた。老年看護学援助方法（3回生前期・1単位・演習）：実技演習に加え、事例を用いて看護展開方法を教授し、個別学習・グループ学習で看護展開を再考した。介護予防の視点を論じ高齢者の生活の拡大支援と援助方法について演習し、高齢者に対する看護への理解を深めた。老年保健看護学実習（3回生後期・2単位・実習）：通所介護サービス（計5か所）、及び介護予防事業（計6か所・元気体操クラス・ますます元気教室・元気健幸教室・健康サポートひろば）に教員や臨地実習指導者の指導のもと安全に実習を進めることができ、88名全員が単位を修得した。老年看護学実習（3回生後期・2単位・実習）：2グループに分かれ介護老人保健施設において、受け持ち高齢者の生活援助技術の体験、看護展開をし、グループ学習にて高齢者理解を深めた。教員及び臨地実習指導者の指導により安全に実施し、88名全員が単位を修得した。広域統合看護学実習（4回生前期・2単位・実習）：介護老人保健施設、介護老人福祉施設での実習を実施し、高齢者理解を深めることができた。卒業演習（4回生通年・2単位・演習）：領域各教員が2～5名の学生を担当し、学生の関心のあるテーマにそって計画的にすすめ、卒業論文を作成した。</p>
点検評価	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>老年看護学実習では、2施設に分かれて実習を行うことから実習経過共有のため学生全員と教員で学内カンファレンスを毎日行った。その日の振り返り、課題の抽出、共有を図ることができた。学内演習を増やしたことで例年に比べ技術面では改善点が見られた。卒業演習、広域統合看護学実習は学生が主体的に参加出来ていた。</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>学習準備やコミュニケーション能力に課題のある学生が目立つ状況であった。看護過程の展開を行う上で、個別の指導体制をつくる必要性があり、学生の学習の進捗や理解度などの個性に合わせた実習指導が必要であった。接遇や態度面において、自分の言動における相手の影響への配慮ができない学生が少なくない。相手に援助者として現れるような対応・関係の築き方についても教育していく必要がある。</p>
将来に向けた発展方策・課題	<p>2科目4単位の同時実施である実習体制を見直す予定である。概論→1単位の实習→援助論→援助方法→3単位の实習を行う。現在の学生は高齢者と触れ合う機会が少ないため、1単位の实習を挟むことによりスムーズに高齢者の理解を深めることが出来る体制を構築する。</p>

領域名	小児看護学
担当教員	泊祐子、竹村淳子、曾我浩美、岡田育恵（非常勤教員）
担当科目	小児看護学概論、小児看護学援助論、小児看護学援助方法、家族看護学、小児看護学実習、看護実践と理論の統合、広域統合看護学実習（小児）、卒業演習
現状の説明	<p>「小児看護学概論」では、小児看護学の対象となる子どもと家族の理解を主眼としている。また講義と共に院内保育室での見学は継続して実施している。「小児看護学援助論」では、小児期特有の健康障害と症状のアセスメントについて、基本的な知識を教授した。特に発達段階に応じた問診や観察など小児看護特有の工夫を考えさせた。「小児看護学援助方法」では、健康段階別・状況別の援助方法について技術演習を組み合わせ教授した。「家族看護学」では、家族看護理論の適用に関し、グループワークで事例に取り組み、理解を深めた。「看護実践と理論の統合」では、実習前のロールプレイングで実践力の確認をし、実習後のグループワークで小児看護での学びを共有した。「小児看護学実習」では、小児病棟・外来及び小中学校・特別支援学校での実習を行い、小児期に特有の健康障害がある子どもへの看護の実際と学校での健康管理の実際や教員や養護教諭、看護職の役割について学んだ。「広域統合看護学実習（小児）」では、高度医療施設、急性期医療施設、障害児医療施設に分かれて実施し、受けもち児の看護の実践を通して小児看護の専門性を教授し、小児と家族への支援とチーム医療の実際についての学びを深めた。昨年に引き続き、実習施設の指導者を招いて発表会を実施した。「卒業演習」では、6人の学生が小児看護学を選択した。各学生の関心からテーマを絞り、研究方法の選択、実施、論文執筆と発表までの取り組みを行った。研究方法は事例研究と文献検討であった。</p>
点検評価	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>「看護実践と理論の統合」では、最大限多くの学生が技術演習での援助を経験できるよう、グループを組み、2種類の演習を同時進行で交互に実施した。その結果、「小児看護学実習」で主体的に援助を実施できる学生が増加した。</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>「広域統合看護学実習」での障害児施設の実習先が重症心身障害児病棟に変更となり、学生の事前学習内容と受けもち児の身体状況との差が大きかったため、受けもち児の理解と看護実践に効果的な事前学習を提示する必要がある。</p> <p>「小児看護学実習」で小児への接し方が身についていない学生が増えてきたため、行動レベルの理解に至るまでの指導が必要であると考えます。</p>
将来に向けた発展方策・課題	<p>次年度より、「小児看護学実習」の内容を一部変更し、小児病棟とNICUで実習を行う予定であるため、学生の学びが深まるよう、実習要項の追加修正を行う。また、「看護実践と理論の統合」の時間が実習前後とも短縮となるため、NICU実習への適応も含め、目的が達成できるよう実施内容を検討する。</p>

領域名	母性看護学・助産学
担当教員	佐々木綾子、竹明美、西頭知子、林文子
担当科目	セクシュアリティと看護、リプロダクションと看護、母性看護学概論、母性看護学援助論、母性看護学援助方法、母性看護学実習、助産学概論、助産診断・技術学 I、助産診断・技術学 II、助産管理、助産学実習、看護実践と理論の統合、卒業演習、広域統合看護学実習
現状の説明	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義は、学生のこれまでの既履修科目をふまえ、予習課題、授業、復習課題により知識習得できるよう展開した。さらに学生の興味・関心を高め、自ら学び考えることのできる、参加型を重視した講義を行った。最新の国家試験出題傾向を分析し、教育に活用した。 2. 演習科目では、実践的演習をめざし、オリジナルのアセスメントツール、実践的模擬事例、教員作成の母性看護技術 DVD 活用などにより基本的な看護実践能力の育成をめざした。また、助産学実習では産科危機的出血に関するシミュレーション教育を取り入れた。 3. 学生の前年度評価結果をオリエンテーション資料に反映させ、改善点を明確にした。講義・演習科目の学生レポート評価方法としてループリック評価等を活用し、評価の「見える化」を行った。講義・演習科目の簡易指導案を作成し教員間で共有した。 4. 実習では、実習施設との連携、教育設備の充実、教材整備・教材開発、医学部・附属病院看護部との連携により、基本的な看護実践能力の育成を行った。 5. 助産学実習の履修者は、実習施設が受け入れ可能であったことから、これまでで最も多い7名が履修した。
点検評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 効果が上がっている事項 前年度の学生の授業評価をふまえ、講義・演習内容の改善を行うことができた。学生による授業評価科目では、概ね良い評価が得られた。予習課題、授業、復習課題による教育は、学生の専門知識・技術の習得に効果があったと考える。また、新たにシミュレーション教育を取り入れるなど、臨床現場に即した実践的な演習は効果がみられた。 2. 改善すべき事項 再試験者がみられた科目があった。次年度も、小テストや練習問題、予習課題、反転授業、復習課題などで知識・技術習得を促すことができるよう教授方法を工夫する。多様な事例のシナリオを作成し、シミュレーション教育を推進する。 看護学実習事故報告については、実習オリエンテーションで具体的な事例を紹介し、学生の認識を高めるなど工夫したが、助産学実習3件、母性看護学実習3件発生した。要因を分析し、実習指導者とも共有し引き続き発生予防に努める。 助産学実習において10月まで実習期間延長した学生は7名中2名であった。実習受け入れ施設は平成30年度減少するため、6名程度の学生の受け入れ施設を確保するため、新規実習施設の開拓が喫緊の課題である。
将来に向けた発展方策・課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. PDCA サイクルと基本とする。母性看護学・助産学の科目間の連携を強め、効率的・効果的な授業展開方法を展開する。視覚支援教材などの積極的活用、学生の習得状況を丁寧に確認し、看護実践力を育成する。 2. 各学生が、確実な知識・技術習得に加え、生涯学習力の基盤となる学士力を育成できるよう教育方法を検討する。

領域名	精神看護学領域
担当教員	荒木孝治、元村直靖、瓜崎貴雄、岡本史彦（非常勤教員）
担当科目	人間関係論、精神看護学概論、精神看護学援助論、精神看護学援助方法、精神看護学実習、看護実践と理論の統合、広域統合看護学実習、卒業演習、心理学、大阪を学ぶ、健康科学概論、医療倫理学、医療カウンセリング、リスクマネジメント
現状の説明	<p>（荒木，瓜崎）：精神看護学概論では精神看護の基本概念を、精神看護学援助論では精神疾患とその看護について基本的知識を、精神看護学援助方法では事例を用いて精神疾患患者への看護方法を教授した。卒業演習では、学生の関心に沿って、「緘黙の強い統合失調症患者への援助方法」など、計6名の指導を行った。</p> <p>（荒木，瓜崎，岡本）：精神看護学実習では本学附属病院精神神経科病棟または単科精神科病院である新阿武山病院にて、看護過程を展開し、基礎的实践能力を養った。広域統合看護学実習では、新阿武山病院のデイケア・作業療法室・訪問看護室と、大阪府立精神医療センター（緊急救急病棟、男子高度ケア病棟、児童思春期病棟のいずれか）で看護管理や包括医療の視座を盛り込んで実習を展開した。（元村）：心理学（1年生担当）では、主に正常な人間の心理の理解を深めるとともに、認知心理学、人間性心理学、臨床心理学など多彩な心理学の領域を広く教授したが、内容を十分こなしきれなかったきらいがあり、教授する分量を考える必要がある。なお、卒業演習は4年生担当であり、その主題は、「発達障害」に関するものが多かった。</p>
点検評価	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>（荒木，瓜崎）：講義では、視聴覚教材を用い、外部講師による講義の機会を設けることによって、学生は精神疾患や精神科における看護の実際をよりイメージできたと思われる。（荒木，瓜崎，岡本）：実習では、受け持ち事例をより深く検討できるように、個別面談の機会を増やし、既習の精神看護学関連科目の学習内容と照らしながら指導した結果、学生は患者に関心を向け続け、患者の生活歴や興味・関心を踏まえた看護の具体策を見出すことができた。（元村）：内容を十分こなしきれなかったきらいがあり、教授する分量を考える必要がある。</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>（荒木，瓜崎）：講義では、毎回の学習内容の理解度を評価するために小テスト等を実施したが、方法や内容の更なる検討が必要である。（荒木，瓜崎，岡本）：実習では、実習施設毎の学びを共有するための方策の検討が必要である。（元村）：学生の患者との接し方について、なお対応すべきことがある。</p>
将来に向けた発展方策・課題	<p>（荒木，瓜崎）：精神障がい者の地域生活を支えることについて、学生は実習の経験を通し、その課題の重要性に気づいていたが、更に具体的な援助方法を考えることができるように、授業内容や方法を工夫していく必要がある。（元村）：精神疾患患者が、さまざまな場所で共生していることを理解する。</p>

領域名	在宅看護学領域
担当教員	真継和子、佐野かおり、大橋尚弘
担当科目	在宅看護学概論、在宅看護学援助論、在宅看護学援助方法、在宅看護学実習、看護実践と理論の統合、広域統合看護学実習、卒業演習
現状の説明	<p>「在宅看護学概論」では、知識の定着を図るため事前課題提示と確認テストの実施、授業資料の UNIPA 掲示により復習の強化を促した。さらに、在宅看護のイメージ化ができるよう実践場面の紹介、DVD 等の視聴覚教材を用いて展開した。</p> <p>「在宅看護学援助論」では、在宅という場の特徴を考慮した支援を実践できるよう、既習学習を確認しながら応用へと結びつけていった。また、在宅人工呼吸療法、呼吸理学療法に関する演習時間を増枠し、基本的な実践力の育成をめざした。</p> <p>「在宅看護学援助方法」では、実習との連動を考慮し 4 例の事例を用い、教員が模擬患者となるなど実践的な展開を試みた。また、業者の協力を得ながら、在宅における人工呼吸器、酸素療法などの体験学習を取り入れた。</p> <p>「在宅看護学実習」では、実習施設との連携、学習環境の整備、教員間での情報共有を行いながら、学生が積極的にケアに参加し在宅療養者と家族の理解、ニーズに沿った看護ができるよう調整した。また、実習施設指導者とともに学内での授業内容と教育方法、学生の発達段階と学習への動機づけなどについて学習会をもち、学生理解につながるようにした。</p> <p>「広域統合看護学実習」は 10 名、「卒業演習」は 11 人の学生が選択した。それぞれのテーマにもとづき実習を展開し、また研究課題に沿って論文をまとめた。</p>
点検評価	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>実践場面や DVD の活用は、在宅看護に対する学生の興味・関心を高めることにつながっている。人工呼吸器や酸素療法などの体験学習は対象理解につながった。さらに、模擬患者を取り入れた演習は非常に実践的であり、ケアの準備性や意図的なコミュニケーション、相手の思いや立場を考慮したかわりにおける自己課題の明確化につながっており、実習場面でも活かされていた。</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>講義科目では確認テストを実施しているが、その場限りの知識の詰め込みになっている面がある。学生の思考力を問う内容を検討していく。さらに、課題意識をもち参加型の授業となるよう、経験を重視した演習を工夫する。実習科目では、実習施設により訪問事例数や実習終了時間の違いなどから、学生の負担が大きいことが課題である。実習目標と実習計画、実習方法、記録の見直しをしていく。また、制度や社会資源の理解が不足しているため、教授方法を工夫する。</p>
将来に向けた発展方策・課題	<p>学生の論理的思考能力を強化していくために、科目間のつながりを意識するとともに、リフレクションサイクルにもとづいた授業展開を強化する。視聴覚教材の活用、実践例の紹介など在宅看護の具体的なイメージ化を図る。</p> <p>制度や社会資源の理解が深まるよう課題探索型の教育方法等を検討する。</p>

領域名	公衆衛生看護学
担当教員	吉田久美子、土手友太郎、草野恵美子、月野木ルミ、山埜ふみ恵、福岡美佐子（非常勤）
担当科目	必修：保健福祉医療概論、統計学、公衆衛生学・疫学、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学活動論、公衆衛生看護学実習Ⅰ、卒業演習 選択科目：くらしと社会・環境、公衆衛生看護学活動方法、公衆衛生看護学管理論、ヘルスプロモーション、公衆衛生看護学演習、公衆衛生看護学実習Ⅱ
現状の説明	「公衆衛生看護学」では、公衆衛生看護活動のイメージ化ができるよう実践場面の紹介やDVD等の視聴覚教材を用いて展開した。また、レスポンスペーパーを利用して、学生の疑問にすぐに回答をしている。「公衆衛生看護学活動論」では、個別・集団・地域を対象にした援助方法について演習時間を取り入れ展開した。選択科目の「公衆衛生看護学活動方法」では、健康教育の計画立案、実施、評価まで演習で行い、学生の実践能力の向上を目指した。選択科目の「公衆衛生看護学管理論」では、高槻市の地域診断の演習を行い、公衆衛生看護活動のPDCAサイクルの理解を深めた。選択科目の「ヘルスプロモーション論」では、グループで保健計画作成を行い、ヘルスプロモーションの理解を深めた。選択科目の「公衆衛生看護学演習」では、家庭訪問と健康相談のロールプレイングで実践力の確認をし、実習地の地域診断を行うことで「公衆衛生看護学実習Ⅱ」の準備をおこなった。また、実習に向けた自己及びグループの課題を明確にした。「公衆衛生看護学実習Ⅱ」の履修者は33名であり、7グループに分かれて、実習を行った。実習地は、大阪府下3カ所と遠隔地4カ所で、事前に実習先に出向き、実習目標にあった内容の選定をし、学生が個人・家族地域へのアプローチ方法が理解できるように調整した。また、実習の最後には地域特性にあわせた保健事業計画を報告し実践力を高めている。「公衆衛生看護学実習Ⅰ」は、90名に検疫所と事業所にて体験学習をすることで、感染症対策と労働衛生を体験学習を学んだ。卒業演習は、11名が選択した。学生が興味のあるテーマに取り組み、研究課題に添って論文作成を行った。
点検評価	1. 効果が上がっている事項：「公衆衛生看護学実習Ⅱ」の地域診断については、演習で地域特性を把握し、実習中に地区踏査や保健事業に参加し、住民や指導者から助言をもらい、全施設において健康課題の抽出とさらに地域保健活動計画の立案まで実施でき、実習先からも良い評価をいただいた。また、実習期間中に体験できる事業には積極的に参加することで、様々な年代と健康レベルの方々を対象とする看護活動の展開や健康づくりに理解を深めていた。 2. 改善すべき事項：遠隔地を含め実習先が多いことから、実習指導者と実習前後の連絡を密にすることで実習内容の厳選と到達目標の共有をはかる。宿泊を伴うため、事前に学生の健康状況を確認し、安全に実習ができるよう工夫する。
将来に向けた発展方策・課題	学生の保健師課程を理解するために、選択科目について科目間のつながりを意識した授業展開が必要となる。 また、実習形態の工夫は今後も必要である。

領域名	看護実践発展領域
担当教員	林優子、鈴木久美、津田泰宏、西菌貞子
担当科目	健康科学概論、フィジカルエグザミネーション、病気の診断、病気の治療、看護研究法、看護教育、チーム医療論、看護と生体診断法、先端医療に伴う看護技術、緩和ケアと代替・補完療法、広域統合看護学実習、看護実践発展実習、卒業演習
現状の説明	<p>「健康科学概論」は、健康及び健康を守り健康を作るための生き方について、ライフスタイル、生き方の選択、健康リスク、社会と環境の4つの視点からグループ学習を主とした授業を展開した。「フィジカルエグザミネーション」は、講義と心・呼吸音聴取、神経・腹部診察の演習を行い、実技試験は呼吸音聴取・心音聴取・腹部診察の三項目で施行した。「病気の診断」、「病気の治療」では、臨床医学のほぼ全範囲を網羅した講義を行った。「看護研究法」は、研究方法、研究倫理、文献検索、研究計画書等の講義と演習を取り入れて行った。「看護教育」は、カリキュラムの変遷と課題、キャリア発展・生涯学習について学習を進めた。また、能動的学習原理について課題発見問題解決型であるIBLを通して展開した。「チーム医療論」、「看護と生体診断法」、「緩和ケアと代替・補完療法」は、講義及びグループワーク、事例、IBLを用いた演習で展開した。「先端医療に伴う看護技術」では、IBLの演習と連動させた看護技術の演習を取り入れた。「看護実践発展実習」は53名の学生が選択し、重症度やケア度の高い患者を受け持ち、アセスメント力や実践力を強化する実習を行った。「広域統合看護学実習」は、11名の学生を受け入れ、学生の関心領域で実習を行った。「卒業演習」は、6名の学生を受け入れ、学生の関心に沿ってテーマを決め、質問紙調査や文献レビューを行った。</p>
点検評価	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>全般的にグループ学習を用いた授業は学生の主体的な学びを推進できた。IBLを活用した授業では学生が役割をもってグループ学習を活性化し、課題発見と解決に向けた自己学習の促進に繋がっていた。「フィジカルエグザミネーション」の実技試験前には、学生がセルフトレーニングコーナーを使用して自主的に練習する取り組みがみられた。「看護実践発展実習」では、病態を踏まえた臨床判断の大切さや、患者との関わりの中なかで気づきや視野の広がりを実感し、実践力を高めることができていた。「広域統合看護学実習」及び「卒業演習」は、学生の関心を尊重し、学生自らが目標を立て、主体的に取り組んでいた。</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>「病気の診断」、「病気の治療」では、オムニバス形式のため統一した授業プリントの簡略化はできなかったが、試験前に授業プリントを元に要点を容易に把握できるように配慮した。しかし内容が広範囲であり、授業項目の内容を練り直していく必要がある。またクリッカーナノ等のツールやグループワーク等も利用し今までよりもアクティブラーニングを取り入れていく事も検討課題としたい。</p>
将来に向けた発展方策・課題	<p>講義科目は、オムニバスでの展開が多いため、担当教員との連携を密にし、学生が学習目標を達成できるようにすることが望まれる。今後もアクティブラーニングを積極的に取り入れた授業展開となるよう努めていく。</p>

6. 大学院教育活動

1) 授業科目一覧

(1) 博士前期課程教育研究コース

(注) ※：選択科目 ※※：選択必修科目

区分	科目（○数字は単位数）	配当年次	単位取得要件
共通科目	※国際保健① ※医療科学①	1 前 1 後	以下の①～④を満たし 34 単位以上 ①共通専門科目 A「看護倫理」「看護教育学」 「看護学研究方法論」「看護理論」の 4 科目 8 単位
共通専門科目 A	看護倫理② 看護教育学② 看護学研究方法論② ※看護現任教育論② 看護理論② ※※看護教育課程論② ※※看護管理学②	1 後 1 前 1 前 2 前 1 前 1 後 2 前	②共通専門科目 A「看護学教育課程論」または「看護管理学」のいずれか 1 科目 2 単位 ③自領域専門科目から必修科目及び選択科目 4 科目 8 単位以上、全領域専門科目から 3 科目 6 単位以上 ④「特別研究」1 科目 8 単位
共通専門科目 B	※フィジカルアセスメント論② ※臨床薬理学② ※病態生理学②	1 前 1 後 1 前	
療養生活支援看護学	療養生活支援看護学特論② ※看護技術開発学特論Ⅰ② ※看護技術開発学特論Ⅱ② ※看護技術開発学演習Ⅰ② ※看護技術開発学演習Ⅱ② ※移植・再生医療看護学特論Ⅰ② ※移植・再生医療看護学特論Ⅱ② ※移植・再生医療看護学演習② ※がん看護学特論Ⅰ② ※がん看護学特論Ⅱ② ※がん看護学演習② ※慢性看護学特論Ⅰ② ※慢性看護学特論Ⅱ② ※慢性看護学援助論Ⅰ② ※慢性看護学援助論Ⅱ② ※慢性看護学演習Ⅰ② ※慢性看護学演習Ⅱ② ※精神看護学特論Ⅰ② ※精神看護学特論Ⅱ② ※精神看護学アセスメント論② ※精神看護学援助論Ⅰ② ※精神看護学援助論Ⅱ② ※精神看護学演習Ⅰ② ※精神看護学演習Ⅱ②	1 前 1 前 1 前 1 通年 1 後～2 前 1 前 1 後 1 後～2 前 1 前 1 後 1 後～2 前 1 前 1 前 1 前 1 後 1 後 2 前 1 前 1 後 1 前 1 後 1 後 2 前	

区分	科目（○数字は単位数）	配当 年次	単位取得要件
地域 家族 支援 看護 学	家族看護学特論② ※周産期看護論② ※※母性看護学特論② ※ウィメンズヘルス看護論② ※※周産期看護援助論Ⅰ② ※※周産期看護援助論Ⅱ② ※周産期看護演習Ⅰ② ※周産期看護演習Ⅱ② ※※小児看護学特論② ※小児と病気② ※発達障害看護論② ※※小児看護アセスメント論② ※※小児看護学演習② ※※地域看護学特論② ※※地域ケアシステム特論② ※地域母子保健論② ※※地域看護学演習②	1 前 1 前 1 前 1 前 1 前 1 後 1 後～2 前 1 後～2 前 1 前 1 後 2 前 1 後 1 後～2 前 1 前 1 後 2 前 1 後～2 前	
特別研究	特別研究⑧	1～2 通年	

(2) 博士前期課程高度実践コース

(注) ※：選択科目 ※※：選択必修科目

区分	科目（○数字は単位数）	配当 年次	単位取得要件
共通科目	※国際保健① ※医療科学①	1 前 1 後	以下の①～④の全て、⑤～⑧のいずれか、及び⑨を満たし 42 単位以上
共通専門 科目 A	看護倫理② ※看護教育学② 看護学研究方法論② ※※看護現任教育論② 看護理論② ※看護教育課程論② ※※看護管理学②	1 後 1 前 1 前 2 前 1 前 1 後 2 前	①共通専門科目 A「看護倫理」「看護学研究方法論」「看護理論」の 3 科目 6 単位 ②共通専門科目 A「看護現任教育論」または「看護管理学」のいずれか 1 科目 2 単位 ③共通専門科目 B「フィジカルアセスメント論」「臨床薬理学」「病態生理学」の 3 科目 6 単位 ④①～③を含む 14 単位以上
共通専門 科目 B	フィジカルアセスメント論② 臨床薬理学② 病態生理学②	1 前 1 後 1 前	⑤療養生活支援看護学領域選択者のうち慢性看護専門 看護師を希望する者は、「慢性看護学特論Ⅰ」「慢性看護学特論Ⅱ」「慢性看護アセスメント論」「慢性看護援助論Ⅰ」「慢性看護援助論Ⅱ」「慢性看護学演習Ⅰ」「慢性看護学演習Ⅱ」「慢性看護学実習Ⅰ」「慢性看護学実習Ⅱ」「慢性看護学実習Ⅲ」の 10 科目 24 単位
療 養 生 活 支 援 看 護 学	慢性看護学特論Ⅰ② 慢性看護学特論Ⅱ② 慢性看護アセスメント論② 慢性看護援助論Ⅰ② 慢性看護援助論Ⅱ② 慢性看護学演習Ⅰ② 慢性看護学演習Ⅱ② 慢性看護学実習Ⅰ② 慢性看護学実習Ⅱ④ 慢性看護学実習Ⅲ④ 精神看護学特論Ⅰ② 精神看護学特論Ⅱ② 精神看護アセスメント論② 精神看護援助論Ⅰ② 精神看護援助論Ⅱ② 精神看護学演習Ⅰ② 精神看護学演習Ⅱ② 精神看護学実習Ⅰ② 精神看護学実習Ⅱ⑥ 精神看護学実習Ⅲ②	1 前 1 前 1 後 1 前 1 後 1 後 2 前 1 後 2 通年 2 通年 1 前 1 後 1 前 1 前 1 後 1 後 2 前 1 後 2 前 2 通年	⑥療養生活支援看護学領域選択者のうち精神看護専門 看護師を希望する者は、「精神看護学特論Ⅰ」「精神看護学特論Ⅱ」「精神看護アセスメント論」「精神看護援助論Ⅰ」「精神看護援助論Ⅱ」「精神看護学演習Ⅰ」「精神看護学演習Ⅱ」「精神看護学実習Ⅰ」「精神看護学実習Ⅱ」「精神看護学実習Ⅲ」の 10 科目 24 単位 ⑦地域家族支援看護学領域選択者のうち母性看護専門 看護師を希望する者は、「家族看護学特論」「周産期看護論」「母性看護学特論」「ウィメンズヘルス看護論」「周産期看護援助論Ⅰ」「周産期看護援助論Ⅱ」「周産期看護演習Ⅰ」「周産期看護演習Ⅱ」「周産期看護実習Ⅰ」「周産期看護実習Ⅱ」「周産期看護実習Ⅲ」の 11 科目 26 単位 ⑧地域家族支援看護学領域選択者のうち小児看護専門 看護師を希望する者は、「家族看護学特論」「小児看護学特論」「小児と病気」「周産期看護論」「発達障害看護論」「小児アセスメント論」「地域母子保健論」「小児看護学演習」「小児看護学実習Ⅰ」「小児看護学実習Ⅱ」「小児看護学実習Ⅲ」の 11 科目 26 単位 ⑨「課題研究」1 科目 4 単位

領域	科目（○数字は単位数）	配当 年次	単位取得要件
地域 家族 支援 看護 学	家族看護学特論②	1 前	
	周産期看護論②	1 前	
	母性看護学特論②	1 前	
	ウィメンズヘルス看護論②	1 前	
	周産期看護援助論Ⅰ②	1 前	
	周産期看護援助論Ⅱ②	1 後	
	周産期看護演習Ⅰ②	1 後～2 前	
	周産期看護演習Ⅱ②	1 後～2 前	
	周産期看護実習Ⅰ②	1 後	
	周産期看護実習Ⅱ④	2 前	
	周産期看護実習Ⅲ④	2 通年	
	小児看護学特論②	1 前	
	小児と病気②	1 後	
	発達障害看護論②	2 前	
	小児看護アセスメント論②	1 後	
	小児看護学演習②	1 後～2 前	
	小児看護学実習Ⅰ②	1 後～2 前	
	小児看護学実習Ⅱ⑥	1 後～2 前	
	小児看護学実習Ⅲ②	2 通年	
	地域母子保健論②	2 前	
特別研究	課題研究④	1 後～2 後	

(3) 博士後期課程

(注) ※：選択科目 ※※：選択必修科目

区分		科目（○数字は単位数）	配当年次	単位取得要件
基盤科目		看護科学研究論② ※看護学研究法応用論（保健統計）① ※看護学研究法応用論（実験法）① 看護学教育開発論② ※看護学教育演習① 英語論文演習① ※異文化看護論①	1 前 1 後 1 後 2 前 2 後 2 前 1 前	以下①～④をすべて満たし、合計 17 単位以上 ① 基盤科目「看護科学研究論」「看護学教育開発論」「英語論文演習」の 3 科目 5 単位 ② 基盤科目「看護学研究法応用論（保健統計）」「看護学研究法応用論（実験法）」「看護学教育演習」「異文化看護論」の中から 1 科目 1 単位以上 ③ 専門科目「療養生活支援看護学特論」「療養生活支援看護学演習」または「地域家族支援看護学特論」「地域家族支援看護学演習」の 2 科目 3 単位 ④ 「特別研究」1 科目 8 単位
専門科目	療養生活支援看護学	※療養生活支援看護学特論② ※療養生活支援看護学演習①	1 後 2 通	
	地域家族支援看護学	※地域家族支援看護学特論② ※地域家族支援看護学演習①	1 後 2 通	
特別研究		特別研究⑧	1～3 通	

2) 博士課程修了者学位論文タイトル一覧

(1) 博士後期課程

氏 名	専攻分野	学位論文タイトル
谷水 名美	移植・再生医療看護学	社会で生活する肝移植レシピエントの Well-Being を目指した看護支援モデル作成
山崎 歩	小児看護学	1 型糖尿病をもつ女性の思春期・青年期におけるセルフマネジメントの獲得に関する研究

(2) 博士前期課程

氏 名	コース 専攻分野	学位論文タイトル
長沢 美和子	教育研究コース 移植・再生医療看護学	婦人科腫瘍手術後の高齢患者におけるリンパ浮腫予防のセルフケアに関する調査 ―65 歳未満患者との比較から―
藤澤 由里子	教育研究コース 精神看護学	統合失調症を発症した子どもをもつ母親のこれまでの気づきとあり方の変化に関する考察と看護への示唆
赤松 志麻	高度実践コース 小児看護学	思春期初発クローン病患児の退院後に母親が体験した食事療法に関する困難と対処
米澤 知恵	教育研究コース 看護技術開発看護学	舌苔除去方法の開発に関する基礎研究
青山 芽久	教育研究コース 移植・再生医療看護学	二次救急医療機関における高齢患者の救急外来看護の現状
小池(下畑) 美香	教育研究コース 移植・再生医療看護学	手術室看護師が医療事故を防止するための気づきと解釈
天野 功士	教育研究コース がん看護学	経口抗がん剤を継続している初発神経膠腫患者の生活の調整過程
赤塚 七重	教育研究コース 母性看護学	保育士による母乳育児支援の現状および関連要因

(学位記番号順)

V. 研究活動

1. 研究実績

1) 外部資金・競争的研究資金等の申請採択状況

平成 28 年度 看護学部 of 競争的研究資金等の採択状況

研究活動			新規採択件数	継続件数	合計金額(円)
科学研究費助成事業	基盤研究（B）	代表	1	0	5,100,000
		分担	1	2	900,000
	基盤研究（C）	代表	2	9	11,800,000
		分担	4	3	910,000
	挑戦的萌芽研究	代表	1	0	1,500,000
		分担	0	0	0
	若手研究（B）	代表	1	1	2,800,000
	研究活動スタート支援	代表	1	0	1,200,000
	厚生労働科学研究費補助金	代表	0	0	0
		分担	0	0	0
省庁・独立行政法人等の競争的資金 （科研費を除く）	代表	0	0	0	
	分担	0	1	400,000	
財団等による研究助成			2	0	454,600
企業等による共同研究、研究助成			0	1	0
総 合 計					25,064,600

平成 28 年度科学研究費助成事業交付一覧

(研究代表者)

研究種目	氏 名	研 究 課 題 名	交付額(円)
基盤研究(B)	西 蘭 貞子	看護基盤能力の評価指標開発と IBL の進化によるプロフェッショナル教育モデルの確立	5,100,000
基盤研究(C)	土肥 美子	看護系大学に所属する若手教員の学習支援力に関する研究	1,000,000
基盤研究(C)	西頭 知子	セクシュアリティの健やかな発達を促す教育プログラムの開発	1,000,000
基盤研究(C)	林 優子	臓器移植看護における看護師の倫理的実践の変化－アクションリサーチを用いて－	2,200,000
基盤研究(C)	草野 恵美子	高齢者世代が参画する地域のつながりを重視した効果的な子育て支援プログラムの開発	600,000
基盤研究(C)	泊 祐子	特別支援学校において医療的ケアを担う看護師の専門性を高める支援プログラムの構築	700,000
基盤研究(C)	小林 道太郎	看護の組織倫理に関する理論的・実証的研究	1,300,000
基盤研究(C)	鈴木 久美	再発乳がん患者のがんとともに生きる力を支える心理社会的看護介入プログラムの開発	1,200,000
基盤研究(C)	竹村 淳子	在宅重症心身障害児の社会化を図る親教育支援プログラムの開発	800,000
基盤研究(C)	佐々木 綾子	3 次元分娩アニメーションによる安全な分娩のためのコミュニケーション支援ツール開発	300,000
基盤研究(C)	道重 文子	口腔ケアに関する看護技術教育プログラムの開発	1,400,000
基盤研究(C)	川北 敬美	交代制勤務が困難な短時間勤務者の活用プログラムの開発	1,300,000
挑 戦 的 萌 芽 研 究	赤澤 千春	高齢で繊維化している下肢リンパ浮腫を改善するために効果的な圧迫療法の開発	1,500,000
若手研究(B)	曾我 浩美	肢体不自由児の性教育レディネスの育成 - ライフスキルの習得へのアクションリサーチ -	500,000
若手研究(B)	肥後 雅子	意識障害者の意図的な感情表出の解明:表情分析を用いた基礎的研究	2,300,000
研 究 活 動 ス タ ー ト 支 援	大橋 尚弘	腎移植ドナー、レシピエントへの長期支援プログラム開発に向けた予備調査	1,200,000

(研究分担者)

研究種目	氏 名	研 究 課 題 名	交付額(円)
基盤研究(B)	鈴木 久美	女性がん患者のリプロダクティブヘルスに関する選択を支える看護教育プログラムの開発	600,000
基盤研究(B)	小林 道太郎	医療現象学の新たな構築	250,000
基盤研究(B)	草野 恵美子	地域と個の「強み」を活かす公衆衛生看護技術の統合と教授法の開発	50,000
基盤研究(C)	真継 和子	臨床看護師の批判的リフレクションスキルを強化する I C T 教育プログラムの開発と評価	100,000
基盤研究(C)	草野 恵美子	地区組織のコミュニティ・エンパワメントモデルの適用とハンドブックの作成	50,000
基盤研究(C)	西薊 貞子	看護領域における臨床推論教育の概念整理と改善された教育プログラムの開発	200,000
基盤研究(C)	泊 祐子	家族も共有できる在宅重症心身障害児における体調アセスメントツールの開発および評価	90,000
基盤研究(C)	竹村 淳子	家族も共有できる在宅重症心身障害児における体調アセスメントツールの開発および評価	70,000
基盤研究(C)	土肥 美子	教育指導者育成に向けたバウンダリーレスな臨床学習環境デザイン支援プログラムの開発	300,000
基盤研究(C)	鈴木 久美	成人外来がん患者へのがん疼痛セルフマネジメントを促進する看護介入プログラムの開発	100,000

平成 28 年度厚生労働科学研究費補助金一覧

事業名	研究分担者	研究課題名	補助金額(円)
該当なし			

平成 28 年度省庁・独立行政法人等の競争的資金一覧（科研費を除く）

事業名	研究分担者	研究課題名	助成金額(円)
日本医療研究開発機構 (AMED) 成育疾患克服等 総合研究事業	草野 恵美子	乳幼児期の健康診査を通じた新たな保健指導手法等の開発のための研究 (分担課題名) 地域保健学からの保健指導のモデル開発の検討	400,000

平成 28 年度財団等による研究助成一覧

事業名	研究代表者	研究課題名	助成金額(円)
公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団	真継 和子	「在宅医療」知っていますか？家で最期まで療養したい人に。	254,600
一般財団法人 財団せせらぎ	月野木 ルミ	壮年期女性の健診受診行動に、自身の高血圧・内分泌代謝障害・自覚症状が及ぼす影響	200,000

平成 28 年度企業等による共同研究、研究助成一覧

機関名	研究代表者	研究課題名	研究費(円)
中国山西省人民病院	カルデナス 暁東	『糖尿病患者のファミリーパートナーシップ』看護援助システムの構築	0

2) 各自の業績（外部資金獲得除く）

研究活動/【著書】

佐々木綾子	横尾京子, 常盤洋子, 岡永真由美, 井村真澄, <u>佐々木綾子</u> 他 (2017): 助産師基礎教育新テキスト 第6巻, 横尾京子 (編), 99-120, 日本看護協会出版会. 定方美恵子, 関島香代子, <u>佐々木綾子</u> 他 (2016): ナーシング・グラフィカ母性看護学②母性看護技術, 横尾京子他 (編), 2章 1. 2, 6, 8~10, 13~16節, メディカ出版, 大阪.
鈴木久美	<u>鈴木久美</u> (2017): 慢性疾患を有する患者のセルフマネジメントを促す技術, 野崎真奈美, 林直子, 佐藤まゆみ, <u>鈴木久美</u> (編), 看護学テキスト NiCE 成人看護学 成人看護技術改訂第2版, 300-303, 315-320, 南江堂, 東京.
瓜崎貴雄	<u>瓜崎貴雄</u> (2017): 自殺未遂患者に対する看護師の態度とその変容, 救命救急センターの看護師を対象とした質的・量的研究, 1-144, すびか書房, 埼玉.
竹 明美	平田修司, <u>竹明美</u> (2017): 8. 母子感染症, 助産師基礎教育新テキスト 第7巻, 遠藤俊子 (編), 118-127, 日本看護協会出版会. 定方美恵子, 関島香代子, <u>竹明美</u> 他 (2016): 2章 5, 12節, ナーシング・グラフィカ母性看護学②母性看護技術, 横尾京子他 (編), 69-72, 95-97, メディカ出版, 大阪.
西頭知子	定方美恵子, 関島香代子, <u>西頭知子</u> 他 (2017): ナーシング・グラフィカ母性看護学②母性看護技術, 横尾京子他 (編), 2章 3・4, 7, 11節, メディカ出版, 大阪.
林 文子	菅沼信彦, <u>林文子</u> (2016): 子宮移植の現状 II, 不妊治療の実際-5, 子宮・頸管因子, 柴原浩章 森本義晴 京野廣一編, 図説よくわかる臨床不妊症学一般不妊治療編 (改訂3版), 194-197, 中外医学社, 東京.

研究活動/【論文】

赤澤千春	<p>肥後雅子, <u>赤澤千春</u> (2016): 日常生活上の刺激に対する意識障害患者の反応に関する基礎的研究, 大阪医科大学看護研究雑誌, 第7巻, 28-34.</p> <p>松尾潤子, <u>Phonesavanh Mouioudomde</u>, <u>赤澤千春</u> (2016): ラオス人民民主主義共和国における看護教育の変遷, 大阪医科大学看護研究雑誌, 第7巻, 114-123.</p> <p>中嶋文子, <u>赤澤千春</u>, 近藤恵, ベッカー・カール (2016): 新人看護師の職場適応への過程—5年目看護師の語りの分析—, 梶山女学園大学看護学研究, Vol 9, 1-13.</p>
荒木孝治	<p>瓜崎貴雄, <u>荒木孝治</u> (2017): 先進国の精神病床におけるターミナルケアに関する文献検討, 大阪医科大学看護研究雑誌, 7, 146-155.</p>
佐々木綾子	<p>間中麻衣子, <u>佐々木綾子</u> (2016): 産後うつ予防のためのオリジナルリーフレットを用いた妊娠末期妊婦への個別指導の有用性, 日本ウーマンズヘルス学会誌, 15 (1), 51-62.</p>
鈴木久美	<p>山中政子, <u>鈴木久美</u>, 佐藤禮子 (2016): がん疼痛のある進行肺がん患者の情動体験, 日本がん看護学会誌, 30 (1), 23-32.</p> <p><u>鈴木久美</u>, 林直子, 山内栄子, 府川晃子 (2017): がん患者の Sense of Coherence に関する文献レビュー, 大阪医科大学看護研究雑誌, 7, 3-13.</p> <p>天野功士, <u>鈴木久美</u> (2017): がん患者が生活の再構築過程において直面する課題と取り組みに関する文献検討, 大阪医科大学看護研究雑誌, 7, 72-81.</p> <p>四方文子, <u>鈴木久美</u> (2017): 内分泌療法を受けている乳がん患者の苦痛体験に関する文献検討, 大阪医科大学看護研究雑誌, 7, 137-145.</p>
津田泰宏	<p>Nakamura K, Fukunishi S, <u>Tsuda Y</u>, et al. (2017): A long-lasting dipeptidyl peptidase-4 inhibitor, teneligliptin, as a preventive drug for the development of hepatic steatosis in high-fructose diet-fed ob/ob mice. Int J Mol Med., 20. in press.</p> <p>Yokohama K, Fukunishi S, <u>Tsuda Y</u>, et al. (2016): Rosuvastatin as a potential preventive drug for the development of hepatocellular carcinoma associated with non-alcoholic fatty liver disease in mice. Int J Mol Med., 38(5), 1499-1506.</p> <p>Fukunishi S, Nishida S, <u>Tsuda Y</u>, et al. (2016): Co-Administration of Saireito Enabled the Withdrawal of Corticosteroids in an Elderly Woman with Autoimmune Hepatitis. Intern Med., 55(1), 43-47.</p>
土手友太郎	<p><u>Dote T</u>, Nakayama S, Tamaki J et al. (2016): Survey of Health Awareness, Stage of Change, and Application for Health Guidance Based on Stratification of Specific Health Checkups and Classification of Abdominal Obesity among Middle-Aged Male Employees at a Private University. Osaka Medical College Nursing Research 6, 3-11.</p> <p><u>Dote T</u>, Nakayama S (2016): Applicant Needs, Reasons for Declining Health Counseling, and Requests regarding Health Promotion Services as Stratified by Specific Health Checkup Results and Abdominal Obesity Classification. Japanese Journal of Occupational Medicine and Traumatology 64,188-196.</p>

泊 祐子	<p>岩間恵, <u>泊祐子</u>, 竹村淳子 (2016) : 1 型糖尿病の乳幼児をもつ親の心配や困難とその対応に関する文献検討, 日本小児看護学会誌第 25 巻 3 号, 97-102.</p> <p>竹村淳子, <u>泊祐子</u>, 古株ひろみ (2017) : 二次障害を発症した重症心身障害児をもつ親が治療を決断するまでの看護支援, 小児保健研究第 76 巻 1 号, 57-64.</p> <p>増尾美帆, <u>泊祐子</u>, 竹村淳子, 岩間恵, 西菌貞子, 山地亜希, 川島美保, 山田恵子, 神道那実, 野口賀乃子, 大西文子 (2016) : 小児看護学実習における看護実践と理論を結びつけるための指導方法の検討, 日本看護学教育学会誌, 79-88, 2016 ; 26 (1).</p> <p>山崎歩, <u>泊祐子</u> (2016) : 小児期発症の 1 型糖尿病をもつ患者の思春期・青年期での自己管理に関する要因の文献検討, 642-648, 75 (5).</p> <p>Ayumi Yamasaki, <u>Yuko Tomari</u>, Ryuzo Takaya, Manabu Ishiro (2016): The Process by Which Girls Who Develop Type1 Diabetes School Age Acquire Self-Management Skills during Puberty and Adolescence, Health, 8, 1788-1806, 8.</p>
林 優子	<p>谷水名美, <u>林優子</u>, 西島真知子, 安藤恵子, 梅谷由美 (2016) : 社会で生活する肝移植レシピエントの Well-Being を目指した看護支援モデル作成, 大阪医科大学雑誌, 75 (3), 15-29.</p>
道重文子	<p>原明子, <u>道重文子</u> (2016) : アメリカの Augsburg 大学における異文化看護プログラムの実際, 大阪医科大学看護研究雑誌, 7, 98-104.</p> <p>仲前美由紀, <u>道重文子</u>, 川北敬美, 畑中あかね, 恩幣宏美 (2016) : 口腔ケアにおける看護継続教育に関する文献検討, 大阪医科大学看護研究雑誌, 7, 98-104, 124-130.</p>
元村直靖	<p>福岡千枝, <u>元村直靖</u> (2017) : 身体部位を使用したメンタルローテーション課題が疼痛に及ぼす影響, 大阪医科大学看護研究雑誌 第 7 巻, 21-27.</p>
草野恵美子	<p>岡本玲子, 岩本里織, 西田真寿美, 小出恵子, 生田由加利, 田中美帆, 野村美千江, 城島哲子, 酒井陽子, <u>草野恵美子</u>, 野村(齋藤)美紀, 鈴木るり子, 岸恵美子, 寺本千恵, 村嶋幸代 (2016) : 東日本大震災による津波被災半年後に自治体職員が語った有事の業務と思い～遺体対応に焦点をあてて～, 日本公衆衛生看護学会誌, 5 (1), 47-56.</p> <p>佐々木溪円, 新美志帆, 山縣然太朗, 佐藤拓代, 秋山千枝子, 小倉加恵子, 溝呂木園子, 朝田芳信, 船山ひろみ, 松浦賢長, <u>草野恵美子</u>, 石川みどり, 黒田美保, 市川香織, 山崎嘉久 (2016) : 3 歳児健康診査の実施対象年齢に関する全国調査, 厚生の指標, 63 (15), 8-13.</p>
久保田正和	<p>臼井玲華, <u>久保田正和</u>, 山田小夜子, 江藤美佐子, 富田豊, 香川由美子 (2016) : 在宅で訪問看護を利用する糖尿病療養者への災害時の対策についての実情, 京都民医連中央病院医報, 11, 31-40.</p>
小林道太郎	<p><u>小林道太郎</u> (2016) : 補い合うことと考えること : ある看護師へのインタビューの分析から, 看護研究, 49 (4), 267-275.</p> <p><u>小林道太郎</u>, 真継和子 (2017) : アサーショントレーニングを取り入れた看護倫</p>

	理研修の成果 第2報, 研修後インタビューの分析から, 大阪医科大学看護研究雑誌, 7, 35-42.
竹村淳子	増尾美穂, 泊祐子, <u>竹村淳子</u> , 岩間恵, 西菌貞子, 山地亜希, 川島美保, 山田恵子, 神道那実, 野口賀乃子, 大西文子 (2016): 小児看護学実習における看護実践と理論を結びつけるための指導方法の検討, 日本看護学教育学会誌 第26巻1号, 79-88. 岩間恵, 泊祐子, <u>竹村淳子</u> (2016): 1型糖尿病の乳幼児をもつ親の心配や困難とその対応に関する文献検討, 日本小児看護学会誌第25巻3号, 97-102. 赤松志麻, <u>竹村淳子</u> (2017): クロウン病患者が退院後に体験した食事療法への困難に関する文献検討, 大阪医科大学看護研究雑誌第7巻, 55-61. <u>竹村淳子</u> , 泊祐子, 古株ひろみ (2017): 二次障害を発症した重症心身障害児をもつ親が治療を決断するまでの看護支援, 小児保健研究第76巻1号, 57-64.
真継和子	<u>真継和子</u> , 池西悦子, 山下哲平, 田村由美 (2017): 看護師の学習スタイルと批判的思考態度の特徴および関連性, 大阪医科大学看護研究雑誌, 7, 43-54. 小林道太郎, <u>真継和子</u> (2017): アサーショントレーニングを取り入れた看護倫理研修の成果 第2報, 研修後インタビューの分析から, 大阪医科大学看護研究雑誌, 7, 35-42. 大橋尚弘, 佐野かおり, <u>真継和子</u> , 尾形まき (2017): 大学 - 地域 - 病院協働型健康支援プロジェクトの一環としての健康サロン活動報告 - A 地域における過去4回の活動を通して -, 大阪医科大学看護研究雑誌, 7, 131-136.
瓜崎貴雄	<u>瓜崎貴雄</u> , 荒木孝治 (2017): 先進国の精神病床におけるターミナルケアの事例に関する文献検討, 大阪医科大学看護研究雑誌, 7, 146-155.
川北敬美	仲前美由紀, 道重文子, <u>川北敬美</u> , 畑中あかね, 恩幣宏美 (2017): 口腔ケアにおける看護継続教育に関する文献検討, 大阪医科大学看護研究雑誌, 7, 124-130.
佐野かおり	<u>佐野かおり</u> , 後藤公志 (2016): 股関節鏡視下手術後患者の術前後における生活実態調査, Hip joint, 42, s29-s32. 大橋尚弘, <u>佐野かおり</u> , 真継和子, 尾形まき (2017): 大学 - 地域 - 病院協働型健康支援プロジェクトの一環としての健康サロン活動報告 - A 地域における過去4回の活動を通して -, 大阪医科大学看護研究雑誌, 7, 131-136.
月野木ルミ	土手友太郎, 中山紳, 林江美, 池原賢代, 吉田久美子, 草野恵美子, <u>月野木ルミ</u> , 山埜ふみ恵, 玉置淳子 (2016): 性、年齢、BMI、腹囲、体型に関連した高尿酸決勝の検討, 私立大学における特定健康診断結果の調査, 大阪医科大学看護研究雑誌 7, 14-20.
土肥美子	<u>Doi Y</u> , Hosoda Y (2017): Assessing the Content Validity of the Nursing Faculty Competencies Self-Assessment Scale, Osaka Medical College Journal of Nursing Research, 7, 90-97. 富田亮三, 細田泰子, 根岸まゆみ, 片山由加里, <u>土肥美子</u> (2017): 米国におけ

	<p>る Dedicated Education Unit モデルに関するフィールドワーク, 大阪府立大学看護学雑誌, 23 (1), 67-74.</p> <p><u>土肥美子</u>, 細田泰子, 中橋苗代他 (2016) : 教育指導者の学習環境デザインにおける学習の必要性とその学習方法に関する教育責任者と教育指導者の認識の差異, 日本医学看護学教育学会誌, 25 (2), 57-66.</p> <p><u>土肥美子</u>, 細田泰子, 片山由香里 (2016) : 看護系大学教員が行う臨地実習における学生のメタ認知を促進する支援に影響する要因の検討, 日本医学看護学教育学会誌, 25 (1), 1-7.</p>
西 蘭 貞 子	<p>増尾美帆, 泊祐子, 竹村淳子, 岩間恵, <u>西蘭貞子</u>他 (2016) : 小児看護学実習における看護実践と理論を結びつけるための指導方法の検討, 日本看護学教育学会誌 Journal of Japan Academy of Nursing Education 26 (1), 79-88.</p> <p><u>西蘭貞子</u> (2016) : IBL 学習による看護実践基盤能力 (リテラシー, コンピテンシー) 獲得の特徴, 日本キャリア教育学会第 39 回研究大会論文集, 88-90.</p>
大橋尚弘	<p><u>大橋尚弘</u>, 佐野かおり, 真継和子, 尾形まき (2017) : 大学ー地域ー病院協働型健康支援プロジェクトの一環としての健康サロン活動報告ーA 地域における過去 4 回の活動を通してー, 大阪医科大学看護研究雑誌, 7, 131-136.</p>
曾我浩美	<p>鈴木晃代, 後藤多代, 林伸子, 山田葉子, 長屋由美, <u>曾我浩美</u> (2016) : 左利き医師の執刀する手術における持針器操作マニュアルの作成, 日本看護学会論文集, 急性期看護, 46, 67-69.</p>
林 文 子	<p><u>Hayashi A</u>, Matsuzaki M, Kusaka M, Shiraishi M, Haruna M (2016): Daily walking decreases casual glucose level among pregnant women in the second trimester, Drug Discov Ther, 10, 218-22. doi: 10.5582/ddt.2016.01047 (accessed 2017-2-1)</p> <p><u>Hayashi A</u>, & Sukanuma N (2016): Physical Activity for Gestational, Diabetes Mellitus, Clinics Mother Child Health, 13, 238. doi: 10.4172/2090-7214.1000238 (accessed 2017-2-1)</p> <p><u>林文子</u>, 北乾理恵, 菅沼信彦, 渡邊浩彦 (2016) : 硬膜外無痛分娩における助産ケアのあり方ー臨床的検討を通してー, 日本母性衛生学会誌, 57 (2), 415-420.</p>
肥後雅子	<p><u>肥後雅子</u>, 赤澤千春 (2017) : 日常生活上の刺激に対する意識障害者の感情反応に関する基礎的研究, 大阪医科大学看護研究雑誌 7, 28-34.</p>

研究活動/【学会発表】

赤澤千春	<p>Yuki Yoshikawa, Junji Uchida, <u>Chiharu Akazawa</u> (2016): Analyses of relationship between obstetric complications and preterm delivery in Japanese recipients received kidney transplant, 26th International Congress of the Transplantation Society (Hong Kong)</p> <p>Sayoko Teraguchi, <u>Chiharu Akazawa</u> (2017): The study of weight change and factors influencing the onset of lymphedema in postoperative breast cancer patients receiving hormonal agents, The 20th East Asian Forum of Nursing Scholars (Hong Kong)</p> <p>吉川有葵, 内田潤次, <u>赤澤千春</u> (2016) : 腎移植レシピエントにおける出産後の健康関連 QOL およびソーシャルサポートとの関連, 第 52 回日本移植学会 (東京)</p> <p>青山芽久, 下畑美香, <u>赤澤千春</u> (2016) : デスカンファレンスを通しての看護師の思い, 日本看護研究学会第 42 回学術集会 (茨城)</p> <p>中嶋文子, <u>赤澤千春</u>, 東真理 (2016) : 新人看護師のストレス対処能力を高める支援—成長確認シートを用いた研修—, 日本看護研究学会第 42 回学術集会交流集会 (茨城)</p> <p>大橋尚弘, 林優子, <u>赤澤千春</u> (2016) : 一見穏やかに暮らす高齢夫婦間腎移植の夫婦のありよう, 第 12 回日本移植・再生医療看護学会学術集会 (愛知)</p>
荒木孝治	<p>瓜崎貴雄, <u>荒木孝治</u> (2016) : 民間精神科病院において現有資源をできる限り活用して統合失調症患者の生活習慣病看護に取り組むための一方策, 日本精神保健看護学会第 26 回学術集会, 163, (大津)</p> <p>岡部英子, <u>荒木孝治</u>, 瓜崎貴雄, 藤澤由里子, 正岡洋子 (2016) : 患者の声があらわにする精神科病院におけるターミナルケアの要点, 日本精神保健看護学会第 26 回学術集会, 173, (大津)</p> <p>瓜崎貴雄, <u>荒木孝治</u> (2017) : 思春期・青年期の統合失調症患者の緘黙への看護に関する文献検討, 日本看護研究学会第 30 回近畿・北陸地方会学術集会, 39, (高槻)</p>
鈴木久美	<p>Kanako Naito, <u>Kumi Suzuki</u>, Eiko Yamauchi (2016): The Decision-Making Process on Going the Active Treatment of Advanced Pancreatic Cancer Patients, The 20th International Conference on Cancer Nursing, 18, (Hong Kong)</p> <p><u>鈴木久美</u>, 林直子, 山内栄子, 府川晃子 (2017) : がん患者における Sense of Coherence に関する研究の動向, 第 31 回日本がん看護学会学術集会, 295, (高知)</p> <p>林直子, 中山直子, 高橋奈津子, <u>鈴木久美</u>, 府川晃子 (2017) : 女性乳がん患者の妊孕性温存に関する意思決定における医師の関わりの現状と課題, 第 31 回日本がん看護学会学術集会, 287, (高知)</p> <p>高橋奈津子, 林直子, 中山直子, <u>鈴木久美</u>, 府川晃子 (2017) : 女性乳がん患者の妊孕性温存に関する看護師による意思決定支援の現状と課題, 第 31 回日本がん看護学会学術集会, 288, (高知)</p>

	<p>四方文子, <u>鈴木久美</u> (2017): 内分泌療法を受けている乳がん患者の苦痛体験に関する文献検討, 第 31 回日本がん看護学会学術集会, 293, (高知)</p> <p>天野功士, <u>鈴木久美</u> (2017): がん患者が生活の再構築過程において直面する課題と取り組みに関する文献検討, 第 31 回日本がん看護学会学術集会, 294, (高知)</p>
田中克子	<p>西原望, 伊藤彩, 後藤功, カルデナス暁東, <u>田中克子</u> (2016): 在宅酸素療法患者の酸素化を促進する入浴援助の 1 事例, 第 26 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 10 月 10~11 日, パシフィコ横浜会議センター, プログラム・抄録集, 178 s, (横浜)</p>
津田泰宏	<p><u>Tsuda Y</u>, Nakamura K, Yokohama K, et al. (2016): The Beneficial Effects on Liver Function After Administration of a Direct Acting Antiviral Drug Therapy in Chronic Hepatitis C, DDW2016, (San Diego)</p> <p>大濱日出子, 西川知宏, <u>津田泰宏</u>他 (2016): 当院における TACE 後のソラフェニブの使用について, 日本肝臓学会総会, (東京)</p> <p>朝井章, 大濱日出子, <u>津田泰宏</u>他 (2016): Wilson 病における病型と肝機能の関連, 日本肝臓学会総会, (東京)</p> <p>朝井章, 濱日出子, <u>津田泰宏</u>他 (2016): アルコール多飲患者における消化管からの敗血症と感染抵抗性について, 日本消化器病学会近畿支部第 105 回例会, (大阪)</p> <p>福西新弥, 朝井章, <u>津田泰宏</u>他 (2016): シタグリプチンは 2 型糖尿病及び肥満発症マウスの NAFLD の進展過程において酸化ストレスの発現を阻害する, JDDW, (神戸)</p> <p><u>Tsuda Y</u>, Nishikawa T, Nakamura K, et al. (2016): The effect of interferon-free therapy on tumor recurrence in HCV patients with treatment history of hepatocellular carcinoma, AASLD, (Boston)</p> <p>吉田裕一, 朝井章, <u>津田泰宏</u>他 (2016): 血漿交換法により救命しえた溶血性貧血を伴った Wilson 病の一例, 肝臓学会東部会, (東京)</p> <p><u>津田泰宏</u>, 西川和宏, 横濱桂介他 (2016): 肝癌治療後症例における C 型肝炎インターフェロンフリー治療の肝癌再発に対する効果 ワークショップ, 肝臓学会東部会, (東京)</p> <p>中村憲, <u>津田泰宏</u>, 樋口和秀 (2016): 当院における TACE 不応例肝細胞癌に対するマイクロスフェアの使用成績について シンポジウム, 肝臓学会東部会, (東京)</p> <p>朝井章, 福西新弥, <u>津田泰宏</u>他 (2017): 大阪医大における HBV 治療の現状と課題 シンポジウム, 日本消化器病学会近畿支部第 106 回例会, (大阪)</p>
土手友太郎	<p><u>土手友太郎</u>, 中山紳, 池原賢代他 (2016): 特定保健指導階層化, 内臓脂肪症候群判定, 腹部肥満区分別の血清尿酸値の健診判定状況, 第 75 回日本公衆衛生学会総会抄録集 63, 73, (大阪)</p>

泊 祐子	<p><u>泊祐子</u>，伊藤隆子，上野理絵，上別府圭子他（2016）：事例研究のすすめ－家族看護実践を描くために－，理事会企画，日本家族看護学会第 23 回学術集会，（山形）</p> <p>竹村淳子，真継和子，松本修一，<u>泊祐子</u>他（2016）：突然の出来事に直面した家族の反応をとらえる，交流セッション，日本家族看護学会第 23 回学術集会，55，（山形）</p> <p><u>泊祐子</u>，遠渡絹代，市川百香里，岡田摩理，部谷知佐恵，竹村淳子（2016）：診療報酬を獲得できるエビデンスを積み重ねる－重症心身障がい児の在宅生活を支える訪韓看護事業－，第 42 回日本看護研究学会学術集会特別企画 2，83，（つくば）</p> <p>遠渡絹代，市川百香里，岡田摩理，部谷知佐恵，<u>泊祐子</u>，竹村淳子（2016）：算定外の訪問看護で命をつなぐ超重症心身障害児への在宅看護支援，第 42 回日本看護研究学会学術集会，146，（つくば）</p> <p><u>泊祐子</u>，竹村淳子，岡田摩理，赤羽根章子，部谷智佐恵，遠渡絹代，市川百香里（2016）：在宅で生活している障がい児の家族が希望する診療報酬を算定外サービスの実績と希望，日本小児看護学会第 26 回学術集会，207，（別府）</p> <p>岡田摩理，赤羽根章子，<u>泊祐子</u>，市川百香里，遠渡絹代，部谷智佐恵，竹村淳子（2016）：在宅で生活する障がい児と家族の状況と緊急時の訪問看護サービスの希望，日本小児看護学会第 26 回学術集会，208，（別府）</p> <p>山地亜紀，<u>泊祐子</u>，竹村淳子（2016）：幼児期に小児がんを経験した子どもの学校生活適応への親のかかわりと看護支援の検討，日本小児看護学会第 26 回学術集会，86，（別府）</p> <p>赤松志麻，竹村淳子，<u>泊祐子</u>（2016）：クローン病患者が退院後に体験した食事療法への困難に関する文献検討，日本小児看護学会第 26 回学術集会，205，（別府）</p> <p>岩間恵，<u>泊祐子</u>，竹村淳子（2016）：1 型糖尿病の乳幼児を持つ親の心配や困難に関する文献研究，日本小児看護学会第 26 回学術集会，199，（別府）</p> <p>赤松志麻，竹村淳子，<u>泊祐子</u>（2016）：クローン病患者が退院後に体験した食事療法への困難に関する文献検討，日本小児看護学会第 26 回学術集会（別府）</p> <p>市川百香里，岡田摩理，遠渡絹代，赤羽根章子，部谷智佐恵，竹村淳子，<u>泊祐子</u>（2016）：在宅において重症心身障がい児を育てる親が次子出産時に受けたサービスと希望するサービス，日本家族看護学会第 23 回学術集会，153，（山形）</p>
林 優子	<p>大橋尚弘，<u>林優子</u>（2016）：高齢夫婦間腎移植後に夫婦のみで同居するドナーのありよう，第 42 回日本看護研究学会学術集会（筑波）</p> <p>大橋尚弘，<u>林優子</u>，赤澤千春（2016）：一見穏やかに暮らす高齢夫婦間腎移植後の夫婦のありよう－一組の高齢ドナー、レシピエントの語りを分析して－，第 12 回日本移植・再生医療看護学会学術集会（名古屋）</p>
道重文子	<p>米澤千恵，<u>道重文子</u>（2016）：舌苔除去方法に関する文献検討と今後の課題，日本看護研究学会第 42 回学術集会，193，（つくば）</p>

	米澤千恵, <u>道重文子</u> (2017): 各種舌清掃道具の舌苔除去効果の検討, 日本看護研究学会第30回近畿・北陸地方会学術集会, 45, (高槻)
吉田久美子	土手友太郎, 中山紳, 池原賢代, 林江美, <u>吉田久美子</u> , 草野恵美子, 月野木ルミ, 山埜ふみ恵, 玉置淳子 (2016): 特定保健指導階層化, 内臓脂肪症候群判定, 腹部肥満区分別の血清尿酸値の健診判定状況, 第75回日本公衆衛生学会総会, 418, (大阪) 山埜ふみ恵, 草野恵美子, 荒木孝治, 土手友太郎, <u>吉田久美子</u> (2016): 都市部の介護予防活動内の情緒的サポート授受が近隣とのつながりの程度に及ぼす影響, 第75回日本公衆衛生学会総会, 494, (大阪)
カルデナス 暁東	<u>カルデナス暁東</u> , 斉藤早苗, 辻本裕子, 黒田裕子, 町浦美智子 (2016): 在留中国人女子学生のための婦人科受診行動支援プログラムの評価, 第36回日本看護科学学会学術集会, 12月10～11日, 東京国際フォーラム, プログラム集, 50, (東京) 西原望, 伊藤彩, 後藤功, <u>カルデナス暁東</u> , 田中克子 (2016): 在宅酸素療法患者の酸素化を促進する入浴援助の1事例, 第26回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 10月10～11日, パシフィコ横浜会議センター, プログラム・抄録集, 178s, (横浜)
草野恵美子	中山貴美子, 鳩野洋子, 金子仁子, <u>草野恵美子</u> (2016): 保健師による地区組織活動支援上の課題と解決策, 第75回日本公衆衛生学会総会, 397, (大阪) 土手友太郎, 中山紳, 池原賢代, 林江美, 吉田久美子, <u>草野恵美子</u> , 月野木ルミ, 山埜ふみ恵, 玉置淳子 (2016): 特定保健指導階層化, 内臓脂肪症候群判定, 腹部肥満区分別の血清尿酸値の健診判定状況, 第75回日本公衆衛生学会総会, 418, (大阪) 佐々木溪円, 新美志帆, <u>草野恵美子</u> , 佐藤拓代, 山崎嘉久 (2016): 乳幼児健診や保健指導の実施と評価に関する現状調査, 第75回日本公衆衛生学会総会, 447, (大阪) 市川香織, 佐藤拓代, <u>草野恵美子</u> , 小倉加恵子, 佐々木溪円, 新美志帆, 山崎嘉久 (2016): 市町村におけるハイリスク妊婦の把握と継続支援に関する課題, 第75回日本公衆衛生学会総会, 450, (大阪) 佐藤睦子, <u>草野恵美子</u> , 樺山舞, 新美志帆, 佐々木溪円, 山崎嘉久 (2016): 乳幼児健康診査での健康課題明確化に向けた保健指導に関する検討―問診に着目して―, 第75回日本公衆衛生学会総会, 458, (大阪) 山埜ふみ恵, <u>草野恵美子</u> , 荒木孝治, 土手友太郎, 吉田久美子 (2016): 都市部の介護予防活動内の情緒的サポート授受が近隣とのつながりの程度に及ぼす影響, 第75回日本公衆衛生学会総会, 494, (大阪)
久保田正和	臼井玲華, <u>久保田正和</u> , 山田小夜子 (2016): 在宅で訪問看護を利用する糖尿病療養者への支援の実際, 第59回日本糖尿病学会年次学術集会会長特別企画2, (京都)

	<p>臼井玲華, <u>久保田正和</u>, 山田小夜子, 村地真紀子, 富田豊, 香川由美子 (2016) : 在宅で訪問看護を利用する糖尿病療養者における災害対策についての現状分析, 第 59 回日本糖尿病学会年次学術集会 (京都)</p> <p>臼井玲華, 山田小夜子, <u>久保田正和</u>, 榊原照子, 山田晃代, 高田充知子, 今井貴子, 中西圭子, 小林恵子, 田辺順子, 江藤美佐子 (2016) : 訪問看護における血糖コントロールの改善がみられない在宅独居高齢糖尿病療養者の実情, 第 3 回日本糖尿病医療学学会 (京都)</p>
小林道太郎	<p>真継和子, <u>小林道太郎</u> (2016) : アサーショントレーニングを取り入れた看護倫理研修の成果 (第 1 報), 看護倫理学会第 9 回年次大会, 95, (京都)</p>
竹村淳子	<p>赤松志麻, <u>竹村淳子</u>, 泊祐子 (2016) : クローン病患者が退院後に体験した食事療法への困難に関する文献検討, 日本小児看護学会第 26 回学術集会, 205, (別府)</p> <p>岩間恵, 泊祐子, <u>竹村淳子</u> (2016) : 1 型糖尿病の乳幼児をもつ親の心配や困難に関する文献研究, 日本小児看護学会第 26 回学術集会, 講演集, 199, (別府)</p> <p>山地亜希, 泊祐子, <u>竹村淳子</u> (2016) : 幼児期に小児がんを経験した子どもの学校生活適応への親の関わりと看護支援の検討, 日本小児看護学会第 26 回学術集会, 講演集, 86, (別府)</p> <p>泊祐子, 遠渡絹代, 市川由香里, 岡田摩理, 部谷知佐恵, <u>竹村淳子</u>, 赤羽根章子, 叶谷由佳, 濱田裕子 (2016) : 診療報酬を獲得できるエビデンスを積み重ねる ～重症心身障害児の在宅生活を支える訪問看護事業～, 日本看護研究学会第 42 回学術集会, 83, (つくば)</p> <p>泊祐子, <u>竹村淳子</u>, 岡田摩理, 赤羽根章子, 部谷知佐恵, 遠渡絹代, 市川由香里 (2016) : 在宅で生活している障がい児の家族が希望する診療報酬算定外サービスの実績と希望, 日本小児看護学会第 26 回学術集会, 講演集, 207, (別府)</p> <p>遠渡絹代, 市川由香里, 岡田摩理, 部谷知佐恵, 泊祐子, <u>竹村淳子</u> (2016) : 算定外の訪問看護で命をつなぐ超重症心身障害児への在宅支援, 日本家族看護学会第 23 回学術集会, 146, (山形)</p> <p>市川由香里, 岡田摩理, 遠渡絹代, 赤羽根章子, 部谷知佐恵, 泊祐子, <u>竹村淳子</u> (2016) : 在宅において重症心身障がい児を育てる親が次子出産時に受けたサービスと希望するサービス, 日本家族看護学会第 23 回学術集会, 153, (山形)</p> <p>遠渡絹代, 市川由香里, 岡田摩理, 部谷知佐恵, 泊祐子, <u>竹村淳子</u> (2016) : 算定外の訪問看護で命をつなぐ超重症心身障害児への在宅支援, 日本家族看護学会第 23 回学術集会, 146, (山形)</p> <p><u>竹村淳子</u>, 真継和子, 松本修一, 泊祐子, 八尾みどり, 宮田郁, 曾我浩美, 平山五月, 福嶋松代 (2016) : 突然の出来事に直面した家族の反応をとらえる ～救急事例から～, 日本家族看護学会第 23 回学術集会, 60, (山形)</p> <p>Hiromi Kokabu, Tomoko Kawabata, Ayumi Tamagawa, Yuko tomari, <u>Junko Takemura</u>, Chiyuki Ryugo (2017): Assessment focus points in the health management of children with severe motor and intellectual disabilities by nurses working at special needs</p>

	schools in Japan. The 20 th East Asian Forum of Nursing Scholars, 103, (Hong Kong)
真継和子	<p><u>真継和子</u>, 小林道太郎 (2016) : アサーショントレーニングを取り入れた看護倫理研修の成果 (第1報), 看護倫理学会第9回年次大会, 95, (京都)</p> <p>池西悦子, <u>真継和子</u>, 山下哲平, 田村由美 (2016) : 臨床看護師の個人特性およびリフレクションの経験が批判的思考態度に与える影響, 日本看護学教育学会第26回学術集会, 178, (東京)</p> <p>竹村淳子, <u>真継和子</u>, 松本修一, 泊祐子, 八尾みどり, 宮田郁, 曾我浩美, 平山五月, 福寫松代 (2016) : 突然の出来事に直面した家族の反応をとらえる～救急事例から～, 日本家族看護学会第23回学術集会, 60, (山形)</p> <p>池西悦子, <u>真継和子</u>, 田村由美 (2016) : 看護リフレクションにおける批判的分析スキルを促す発話機能の検討, 日本看護科学学会第36回学術集会, 596, (東京)</p>
瓜崎貴雄	<p><u>瓜崎貴雄</u>, 荒木孝治 (2016) : 民間精神科病院において現有資源をできる限り活用して統合失調症患者の生活習慣病看護に取り組むための一方策, 日本精神保健看護学会第26回学術集会, 163, (大津)</p> <p>岡部英子, 荒木孝治, <u>瓜崎貴雄</u>, 藤澤由里子, 正岡洋子 (2016) : 患者の声があらわにする精神科病院におけるターミナルケアの要点, 日本精神保健看護学会第26回学術集会, 173, (大津)</p> <p><u>瓜崎貴雄</u>, 荒木孝治 (2017) : 思春期・青年期の統合失調症患者の緘黙への看護に関する文献検討, 日本看護研究学会第30回近畿・北陸地方会学術集会, 39, (高槻)</p>
川北敬美	<p><u>川北敬美</u>, 稲垣伊津穂, 池亀みどり (2016) : 子育て期にある看護師の中小規模病院における雇用管理の特徴, 第20回日本看護管理学会学術集会抄録集, 316, (横浜)</p>
佐野かおり	<p><u>佐野かおり</u> (2016) : 自宅における運動器リハビリテーション実施支援に関する国内文献検討, 第42回日本看護研究学会学術集会, 298, (つくば)</p> <p>野村規久子, 毛利由布子, <u>佐野かおり</u> (2016) : A 病院における実践力向上にむけた院外研修参加後の還元レポートの活用, 日本看護学会看護教育学術集会, (大津)</p>
竹 明美	<p>利木佐起子, 辻本裕子, 斉藤早苗, <u>竹明美</u> (2016) : 青年期女性のボディイメージと乳がん自己検診行動の関連, 母性衛生, 57 (3), 259, (東京)</p> <p>辻本裕子, 斉藤早苗, 利木佐起子, <u>竹明美</u> (2016) : 女子大学生の乳房・乳輪・乳首に関する研究, 日本公衆衛生学会総会抄録集 75, 436, (大阪)</p> <p><u>Akemi Take</u>, Hiroko Tsujimoto, Sakiko Riki, Sanae Saitoh (2017): Types of breasts and nipples of Japanese adolescent women: Are determinations based on illustrations reliable?, The 20th EAFONS, Abstract book for Poster Presentations, 31, (Hong Kong)</p>
月野木ルミ	<p><u>月野木ルミ</u>, 村上義孝, 川戸美由紀, 橋本修二 (2016) : 東日本大震災前後と保健統計の研究, 震災前後の腎尿路泌尿器系疾患死亡の状況, 第75回日本公衆</p>

	<p>衛生学会，（大阪）</p> <p>土手友太郎，中山紳，池原賢代，林江美，吉田久美子，草野恵美子，<u>月野木ルミ</u>，山埜ふみ恵，玉置 淳子（2016）：特定保健指導階層化，内臓脂肪症候群判定，腹部肥満区分別の血清尿酸値の健診判定状況，第75回日本公衆衛生学会総会（大阪）</p> <p><u>月野木ルミ</u>，村上義孝（2016）：自覚症状と高血圧通院との関連，平成22年度国民生活基礎調査匿名データ，日本疫学会，（山梨）</p>
寺口佐與子	<p><u>Sayoko Teraguchi</u>, Chiharu Akazawa (2017): The study of weight change and factors influencing the onset of lymphedema in postoperative breast cancer patients receiving hormonal agents, The 20th East Asian Forum of Nursing Scholars, (Hong Kong)</p>
土肥美子	<p><u>Doi Y</u>, Hosoda Y, (2017): Nursing Faculty Competencies and Related Factors of a Junior Faculty belonging to a Nursing Program in Universities. The 20th East Asian Forum of Nursing Scholars Poster Abstract Book, 145, (Hong Kong)</p> <p>中岡亜希子，細田泰子，中橋苗代，<u>土肥美子</u>他（2017）：教育責任者が抱える教育指導者の研修プログラムに関する課題，第27回日本医学看護学教育学会学術学会抄録集，37，（和歌山）</p> <p><u>Doi Y</u> (2016): Literature Review: Nursing Faculty Competencies, The 4th China Japan Korea Nursing Conference Abstract 146, (Beijing)</p> <p><u>Doi Y</u>, Hosoda Y (2016): Examining the Nursing Faculty Competencies Self-Assessment Scale's Reliability and Validity, The 4th China Japan Korea Nursing Conference Abstract 147, (Beijing)</p> <p>Hosoda Y, <u>Doi Y</u>, Katayama Y. (2016): Effects of the Clinical Learning Environment on Support in Facilitating Students' Metacognition: A Comparison between Clinical Preceptors and Nursing Instructors, The 4th China Japan Korea Nursing Conference Abstract 150, (Beijing)</p> <p>細田泰子，中橋苗代，中岡亜希子，<u>土肥美子</u>他（2016）：臨床学習環境デザイナー育成プログラムの運用に関する評価，日本看護学教育学会第26回学術集会，197，（東京）</p>
西薊貞子	<p><u>西薊貞子</u>，青山美智代（2016）：IBL 学習活用による課題発見・課題解決への推論 - 論証の特徴，日本看護研究学会第42回学術集会，（つくば）</p> <p>青山美智代，<u>西薊貞子</u>（2016）：看護学士課程の探究型学習（IBL）による不確定情報の下での対象理解の特徴，日本看護学教育学第26回学術集会，（東京）</p> <p><u>Nishizono T</u>(2017): Examination of effects of acquisition of basic career skills resulting from IBL, The 20th EAFONS, (Hong Kong)</p> <p>松田みなみ，<u>西薊貞子</u>（2017）：救急部門に所属する看護師（CN，CNS，RN）の行動特性と役割認識，第7回日本看護評価学会学術集会，（東京）</p> <p>宮谷健太郎，<u>西薊貞子</u>（2017）：ハイリスク児を持つ父親の役割認識と父親支援の在り方の検討，第27回日本医学看護学教育学会学術学会，（和歌山）</p>

横山浩誉	臼田寛, 土手友太郎, <u>横山浩誉</u> , 河野公一他 (2016): ルビジウム化合物のリスクアセスメントと肝・腎機能への影響について, 日本衛生学雑誌 71, 235.
上山ゆりか	<u>上山ゆりか</u> , 小林寛子 (2016): 認知症高齢者の徘徊行動に対する看護援助, 日本看護研究学会第 30 回近畿北陸地方学術集会, (大阪)
大橋尚弘	<u>大橋尚弘</u> , 林優子, 赤澤千春 (2016): 一見穏やかに暮らす高齢夫婦間腎移植後の夫婦のありようー組の高齢ドナー、レシピエントの語りを分析してー, 第 12 回日本移植・再生医療看護学会学術集会, 44, (愛知) <u>大橋尚弘</u> , 林優子, 赤澤千春 (2016): 高齢夫婦間腎移植後に夫婦のみで暮らすレシピエントのありよう, 第 27 回日本サイコネフロロジー研究会プログラム・抄録集, 011-4, (東京) <u>大橋尚弘</u> , 林優子 (2016): 高齢夫婦間腎移植後に夫婦のみで暮らすドナーのありよう, 第 42 回日本看護研究学会学術集会, 059, (茨城)
曾我浩美	塚本有美, 竹内結衣, <u>曾我浩美</u> (2016): 入院 4 週間後の退院支援カンファレンスにおける看護師の役割, 第 47 回日本看護学会学術集会, 慢性期看護, (鳥取) 熊澤由加, 曾貝保子, 長尾美千代, 石木直美, 長屋由美, <u>曾我浩美</u> (2016): 療養病棟における高齢者ケアに対するジレンマ, 第 47 回日本看護学会学術集会, 慢性期看護, (鳥取) 竹村淳子, 真継和子, 松本修一, 泊祐子, 八尾みどり, 宮田郁, <u>曾我浩美</u> , 平山五月, 福嶋松代 (2016): 突然の出来事に直面した家族の反応をとらえる～救急事例から～, 日本家族看護学会第 23 回学術集会, 60, (山形)
林 文子	<u>Hayashi A</u> , Kozawa Y, Ban Y, Shinoda J, Oguchi H, Matsuzaki M, Haruna M, Suganuma N (2017): The difference in dietary intakes between pregnant women with and without gestational diabetes mellitus in the second trimester: The 20 th East Asian Forum of Nursing Scholars, (Hong Kong) 堤下ゆきな, <u>林文子</u> , 松本亜樹子, 森本義晴, 菅沼信彦 (2016): 子宮移植に対する Mayer-Rokitansky-Küster-Hauser 症候群女性のレシピエントとしての意識調査, 日本受精着床学会第 34 回学術集会, (軽井沢)
山埜ふみ恵	<u>山埜ふみ恵</u> , 草野恵美子, 土手友太郎, 吉田久美子 (2016): 都市部の介護予防活動内の情緒的サポート授受が近隣とのつながりの程度に及ぼす影響, 第 75 回日本公衆衛生学会総会, 494, (大阪) 土手友太郎, 中山紳, 池原賢代, 林江美, 吉田久美子, 草野恵美子, 月野木ルミ, <u>山埜ふみ恵</u> , 玉置淳子 (2016): 特定保健指導階層化, 内臓脂肪症候群判定, 腹部肥満区分別の血清尿酸値の健診判定状況, 第 75 回日本公衆衛生学会総会, 418, (大阪) <u>山埜ふみ恵</u> , 草野恵美子, 吉田久美子 (2017): 高槻市における住民主体の介護予防活動の実施頻度別にみた参加者の特性と効果の検討, 日本看護研究学会第 30 回近畿・北陸地方学術集会, 37, (大阪)

研究活動/【その他】

佐々木綾子	<u>佐々木綾子</u> ：科学研究費助成事業 研究成果報告書（2012～2015），課題番号 24593360，子宮頸がん好発年齢母親小集団の検診行動を促す看護職指導者養成プログラムの効果検証，2016.
鈴木久美	上泉和子， <u>鈴木久美</u> 他（2016）：「看護系大学学士課程における臨地実習の先駆的取り組みと課題 - 臨地実習の基準策定に向けて -」報告書，28 年度 文部科学省 大学における医療人養成の在り方に関する調査研究委託事業，一般社団法人 日本看護系大学協議会，2017. 3
久保田正和	<u>久保田正和</u> ，木下彩栄（2016）：アルツハイマー病と食の関連性，認知症の最新医療，6（4），194-195，フジメディカル出版. <u>臼井玲華</u> ，山田小夜子， <u>久保田正和</u> （2016）：在宅で訪問看護を利用する糖尿病療養者への支援の実際～本人の生き方に合わせた支援が求められる～，DITN，465，6，メディカルジャーナル社.
竹村淳子	<u>竹村淳子</u> （2016）：成人移行期にある重症心身障害児の二次障害に対する手術時期への支援，小児看護第 39 巻 10 号，1289-1293.
川北敬美	<u>川北敬美</u> （2016）：メディカコンクール 2018 年受験者対象基礎学力到達度チェックテスト，メディカ出版. <u>川北敬美</u> （2016）：メディカコンクール第 106 回看護師国家試験対策テスト第 1 回，メディカ出版. <u>川北敬美</u> （2016）：メディカコンクール第 106 回看護師国家試験対策テスト第 2 回，メディカ出版. <u>川北敬美</u> （2016）：メディカコンクール第 106 回看護師国家試験対策テスト第 3 回，メディカ出版.
月野木ルミ	<u>Tsukinoki R</u> （2016）：BMI にかかわらず，血圧は心血管疾患，冠動脈疾患，虚血性脳卒中，出血性脳卒中の発症リスクと直線的に関連，循環器疫学サイト epic-c.jp，ライフサイエンス出版.
寺口佐與子	<u>寺口佐與子</u> （2016）：血管リンパ管吻合術の症例，奈良医療リンパ浮腫 net 第 2 回研究会（奈良） <u>寺口佐與子</u> ，赤澤千春，稲本俊（2016）：周術期乳がん患者の続発性リンパ浮腫予防プログラムの開発，挑戦的萌芽研究報告書. <u>寺口佐與子</u> ，菊谷光代（2017）：リンパ浮腫セルフケア難渋事例の検討，日本看護研究学会第 30 回近畿北陸地方会ワークショップ，（高槻）
土肥美子	<u>土肥美子</u> （2016）：メディカコンクール第 107 回看護師国家試験対策テスト第 1 回（執筆担当：基礎看護学，看護の統合と実践），メディカ出版，大阪.
大橋尚弘	<u>大橋尚弘</u> （2017）：一見穏やかに暮らす高齢夫婦間腎移植後の夫婦のありようー一組の高齢ドナー、レシピエントの語りを分析してー，第 1 回大阪医科大学看護研究会・開催概要，2，（大阪）

VI. 社会活動

社会活動

赤澤千春	<p>日本移植・再生医療看護学会 理事長</p> <p>日本移植・再生医療看護学会 査読委員，編集委員</p> <p>日本看護研究学会 査読委員</p> <p>日本看護研究学会第30回近畿・北陸地方会学術集会 シンポジウム座長</p> <p>日本教育看護学会 査読委員</p>
荒木孝治	<p>日本精神保健看護学会誌 専任査読委員</p> <p>日本移植・再生医療看護学会誌 専任査読委員</p> <p>日本看護研究学会 評議員</p> <p>日本看護研究学会 編集委員</p> <p>日本看護研究学会誌 専任査読委員</p> <p>大阪府立精神医療センター 治験審査委員会 外部委員</p> <p>大阪府立精神医療センター 臨床研究倫理審査委員会 外部委員</p> <p>日本看護研究学会第30回近畿・北陸地方会学術集会 大会長</p>
佐々木綾子	<p>【査読】</p> <p>第18回日本母性看護学会学術集会講演集，2016，（久留米）</p> <p>日本母性看護学会誌，17（1），2016</p> <p>日本看護研究学会第30回近畿・北陸地方会学術集会抄録集，2017，（高槻）</p> <p>日本看護研究学会第30回近畿・北陸地方会学術集会抄録集，2017，（高槻）</p> <p>【セミナー担当】</p> <p>大阪府看護協会，2016年度研修，後輩教育を実施するための成人学習プロセスの基本事項，2016年7月1日，ナーシングアート大阪</p> <p>第159回 Child Abuse 研究会講演「子ども虐待防止のための取り組み親性看護介入プログラムの開発から，2016年10月1日，エル大阪</p> <p>高槻市民間保育園・認定こども園職員等全体研修講演，「乳児期の親子関係について」，2017年1月13日，高槻市役所総合センター</p> <p>寝屋川市児童の保健・福祉・教育に携わる職員等研修「子ども虐待防止のための取り組み 親性育成看護介入プログラムの開発～」，2017年2月10日，寝屋川市立総合センター</p> <p>高知県立大学看護学部非常勤教員，「助産看護の動向と課題」7コマ</p> <p>高知県立大学看護学部非常勤教員，「助産看護学総論」7コマ</p> <p>福井愛育病院看護研究セミナー「もっと気軽に看護研究！研究プロセスの実践編」6回</p> <p>福井愛育病院看護研究指導4題</p> <p>福井愛育病院看護研究発表会講評</p> <p>【座長】</p> <p>日本看護研究学会第30回近畿・北陸地方会学術集会，キャリアアップセミナー</p> <p>日本母性看護学会／会計理事／2016年</p>

	日本母性看護学会／査読委員／2016 年 第 19 回日本母性看護学会／企画委員／2016 年
鈴木久美	日本がん看護学会理事 日本看護科学学会代議員 日本慢性看護学会評議員 日本がん看護学会誌専任査読委員 日本看護科学学会誌和文誌専任査読委員 日本看護系大学協議会文部科学省委託事業プロジェクト委員 愛知県立大学大学院非常勤講師 岐阜県立看護大学大学院非常勤講師 甲南女子大学大学院非常勤講師 関西国際大学大学院非常勤講師 神戸市看護大学大学院博士論文審査委員会委員 乳がん看護認定看護師教育課程非常勤講師 がん化学療法看護認定看護師教育課程非常勤講師
田中克子	日本看護研究学会第 30 回近畿・北陸地方会学術集会 座長
津田泰宏	【研究会・講演会・講師】 進歩しつつある肝硬変のマネジメント，肝疾患を考える会，2016，（大阪） 肝疾患に対する栄養療法、ガイドラインと当科での試み，第 12 回 K-消化管研究会，2016，（大阪） 進歩しつつある肝硬変のマネジメント，消化器学術講演会，2016，（大阪） 肝疾患患者における侵襲時のカルニチンの肝庇護効果－BCAA 製剤との相性は良いのか－，肝臓フォーラム in Osaka，2016，（大阪） 日本内科学会認定内科医，総合内科専門医 日本消化器病学会専門医，近畿支部評議員 日本肝臓学会認定専門医，西部会評議委員，指導医 米国免疫学会会員 大阪医科大学附属病院肝疾患支援センター センター長
土手友太郎	高槻市都市開発・高槻市ホテル等建築・高槻市ばちんこ遊技場建築審議会委員 健康たかつき 21 推進ネットワーク会議委員 厚生労働省医員（関西空港検疫所・大阪検疫所） 高槻市役所産業医
泊 祐子	日本家族看護学会，理事，編集委員長 看護系学会等社会保険連合（看保連）委員 日本看護研究学会専任査読者 日本看護学教育学学会評議員，編集委員会委員 日本看護科学学会評議員 日本看護学教育学学会，評議員

	<p>日本看護学教育学学会，専任査読者</p> <p>日本小児保健協会，専任査読委員</p> <p>日本看護研究学会第 43 回学術集会企画委員会委員</p> <p>和歌山県立医科大学大学院看護学研究科非常勤講師</p> <p>聖泉大学大学院看護学研究科非常勤講師</p>
林 優子	<p>公益社団法人日本看護科学学会代議員</p> <p>一般社団法人日本看護学教育学会理事</p> <p>一般社団法人日本看護学教育学会広報・渉外・社会貢献委員会委員長</p> <p>一般社団法人日本看護学教育学会査読委員</p> <p>一般社団法人日本私立看護系大学協会理事</p> <p>一般社団法人日本私立看護系大学協会大学運営・経営委員会委員長</p> <p>日本移植再生医療看護学会編集委員会委員長</p> <p>日本移植・再生医療看護学会倫理検討委員会委員</p> <p>日本慢性看護学会評議員</p> <p>日本慢性看護学会査読委員</p> <p>一般社団法人日本腎不全看護学会査読委員</p> <p>特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会書面審査員・書面評価委員</p> <p>岡山県看護協会講師（看護研究）</p> <p>浜松医科大学大学院医学系研究科看護学専攻非常勤講師（クリティカルケア看護援助論Ⅱ）</p> <p>第 11 回愛知県臓器・組織移植セミナー（特別講演）講師</p> <p>日本看護研究学会第 30 回近畿・北陸地方海学術集会（特別講演）講師</p> <p>日本看護科学学会第 36 回学術集会（東京）座長</p>
道重文子	<p>日本口腔ケア学会評議員</p> <p>日本看護診断学会評議員</p> <p>日本看護研究学会近畿，北陸地方会継続セミナー委員</p> <p>大阪府看護協会認定看護管理者教育課程セカンドレベル，講師，「看護管理実践計画書作成」，2016</p> <p>京都府看護協会認定看護師教育課程ファーストレベル，講師，「グループマネジメント」，2016</p> <p>東住吉森本病院看護部・NST 合同勉強会，講師，「誤嚥性肺炎予防のための口腔ケアのエビデンス」，2017.2.9</p>
元村直靖	<p>日本トラウマチックストレス学会 理事</p> <p>日本保健医療行動科学会 評議員</p> <p>日本神経心理学会 評議員</p> <p>日本高次脳機能学会 評議員</p>
吉田久美子	<p>日本看護医療学会評議委員</p> <p>日本看護医療学会査読委員</p>

	<p>滋賀県彦根市要保護児童対策協議会副会長</p> <p>社団法人大阪府看護協会教育委員会 地域包括ケア部会委員</p> <p>平成 28 年度産後ケアエキスパート助産師認定講習会 講師 「家族看護及び家庭訪問技術」2 回</p> <p>滋賀県彦根市健康推進課 保健師研修会 スーパーバイザー「ハイリス久母子事例検討会」2 回</p> <p>平成 28 年度 大阪府保健師学生実習指導者説明会 講師</p> <p>平成 28 年度 大阪府保健師現任研修「2 年目研修」講師</p>
草野恵美子	<p>日本公衆衛生看護学会「日本公衆衛生看護学会誌」査読委員</p> <p>日本小児保健協会「小児保健研究」査読委員</p> <p>高槻市地域包括支援センター保健師・看護師連絡会研修会，講師，「ネットワークの力で地域ぐるみの効果的な介護予防を！」</p> <p>平成 28 年度日本医療研究開発機構成育疾患克服等総合研究事業「乳幼児期の健康診査を通じた新たな保健指導手法等の開発のための研究」班主催：標準的な乳幼児健診を考える～モデル作成のミート・ザ・エキスパート研修～，ファシリテーター，「標準的な保健指導・支援」</p> <p>大阪市鶴見区保健福祉センター，研究指導協力</p> <p>大阪市中央区保健福祉センター，研究指導協力</p>
久保田正和	<p>糖尿病スキルアップセミナー世話人</p> <p>在宅ケア研究会世話人</p> <p>京都大学医学部人間健康科学科非常勤講師</p> <p>糖尿病スキルアップセミナー座長，2016 年 7 月 9 日，（京都）</p> <p>地域包括ケアを目的とした在宅医療推進のための多職種研修会座長，2016 年 8 月 28 日，（大阪）</p> <p>平成 28 年度看護研究セミナー講師，2016 年 9 月 8 日，15 日，（大阪）</p> <p>平成 28 年度第 1 回高槻市地域包括ケア推進会議委員，2016 年 11 月 2 日，（大阪）</p> <p>第 12 回社会福祉法人成光苑研究発表会審査員，2017 年 2 月 25 日，（大阪）</p> <p>平成 28 年度第 2 回高槻市地域包括ケア推進会議委員，2017 年 3 月 16 日，（大阪）</p> <p>第 5 回市民看護講座座長，2017 年 3 月 18 日，（大阪）</p>
小林道太郎	<p>日本看護研究学会第 30 回近畿・北陸地方会学術集会 企画委員</p> <p>愛仁会看護助産専門学校・明石医療センター附属看護専門学校 看護学校教員合同研修会「現象学とその見方」（2016. 9. 24），講師</p> <p>京都府看護協会 三地区（北・左京・上京）合同看護研修会「看護職のための現象学 ～経験を伝える～」（2016. 11. 12），講師</p>
竹村淳子	<p>看護研究講師（高槻病院看護部）</p> <p>看護研究講師（近江草津徳洲会病院）</p> <p>日本家族看護学会学会誌 専任査読者</p> <p>家族看護研究会 定例会開催（大阪医科大学看護学部小児看護学領域主催）</p>

	<p>学士課程教育に関する研究会 定例会開催(大阪医科大学看護学部小児看護学領域・日本赤十字豊田看護大学共同)</p> <p>看保連ワーキング(障がい児プロジェクト)研究会 定例会(日本看護研究学会研究助成)</p>
真継和子	<p>京都私立病院協会准看護師研修 講師</p> <p>京都私立病院協会中間管理職研修 講師</p> <p>公益社団法人大阪府看護協会 大阪府専任教員養成講習会 講師</p> <p>公益社団法人大阪府看護協会教育委員会 委員長</p> <p>社会医療法人西陣健康会堀川病院看護倫理委員会 外部委員</p> <p>日本家族看護学会編集委員会 委員</p> <p>日本看護学教育学会 専任査読員</p> <p>日本看護研究学会近畿・北陸地方会第30回学術集会 実行委員長</p> <p>在宅看護研究会 開催(大阪医科大学看護学部在宅看護学領域主催)</p>
瓜崎貴雄	<p>大阪府看護協会 倫理審査委員会 委員</p> <p>日本精神科看護協会大阪府支部 看護研究発表会 評価(査読)委員</p> <p>大阪府看護協会 救急看護認定看護師教育課程「救急患者と家族の心理・社会的アセスメント」 非常勤講師</p> <p>特定医療法人大阪精神医学研究所新阿武山病院「実習指導者研修」 講師</p> <p>日本精神保健看護学会第26回学術集会 実行委員</p> <p>日本看護研究学会第30回近畿・北陸地方会学術集会 企画委員</p>
川北敬美	<p>京都府看護協会認定看護師教育課程ファーストレベル「グループマネジメント」/演習ファシリテーター</p> <p>第30回日本看護研究学会近畿・北陸地方学術集会/実行委員</p> <p>日本看護研究学会第30回近畿・北陸地方会学術集会/査読</p>
佐野かおり	日本看護研究学会第30回近畿・北陸地方会学術集会 実行委員
竹 明美	日本看護研究学会第30回近畿・北陸地方会学術集会企画委員(2016.4~2017.3)
月野木ルミ	<p>日本公衆衛生学会 モニタリングレポート委員会 生活習慣病・メタボリックシンドロームグループ、公衆栄養グループ メンバー</p> <p>日本公衆衛生雑誌 査読委員</p> <p>The Japan Journal of Nursing Science,Reviewer</p> <p>滋賀医科大学 看護学科 客員講師</p> <p>滋賀医科大学 看護学科 非常勤講師</p> <p>立命館大学 産業社会学部 非常勤講師</p>
寺口佐與子	<p>日本移植・再生医療看護学会 広報委員、事務局</p> <p>日本看護研究学会第30回近畿北陸地方会 企画委員</p> <p>京都橘大学非常勤講師「学校保健」</p>
土肥美子	<p>大阪府専任教員養成講習会看護教育評価論(2016.8) 講師</p> <p>大阪医科大学付属病院看護部看護研究セミナー(2016.10) 講師</p>

	日本看護研究学会第 30 回近畿・北陸地方学術集会（2017. 3） 実行委員
西菌貞子	日本看護研究学会近畿・北陸地方会 世話人 日本移植・再生医療看護学会 評議委員 日本移植・再生医療看護学会 査読委員 奈良県立医科大学医学部看護学科 非常勤講師 京都府後援保育士免許取得特例講座 講師 兵庫県立尼崎総合医療センター 教育支援講師
西頭知子	日本看護研究学会第 30 回近畿・北陸地方会学術集会／査読 大阪医科大学看護研究雑誌／査読 日本看護研究学会第 30 回近畿・北陸地方会学術集会／実行委員
横山浩誉	高槻市介護認定審査会 委員 にいみ広域遠隔会議システム検討委員 新見地域在宅医療支援システム研究会 委員 大阪府立消防学校 非常勤講師 大阪行岡医療大学 非常勤講師 日本メディカル福祉専門学校 非常勤講師 はくほう会医療専門学校 明石校 非常勤講師
上山ゆりか	日本看護研究学会第 30 回近畿・北陸地方会学術集会 企画委員
大橋尚弘	日本看護研究学会第 30 回近畿・北陸地方会学術集会 実行委員
曾我浩美	日本看護研究学会第 30 回近畿・北陸地方会 実行委員 家族看護研究会 定例会開催（大阪医科大学看護学部小児看護学領域主催） 学士課程教育に関する研究会 定例会開催（大阪医科大学看護学部小児看護学領域・日本赤十字豊田看護大学共同） 看護研究講師（医療法人香徳会 関中央病院） 大阪医科大学附属病院看護研究セミナー「看護研究の意義と方法 研究における倫理的配慮」講師
林 文子	NPO 法人 OD-NET（卵子提供登録支援団体）マッチング委員，理事会参加
山埜ふみ恵	高槻市地域包括支援センター保健師・看護師連絡会研修会，講師，「都市部の介護予防活動内の情緒的サポート授受が近隣とのつながりの程度に及ぼす影響」 高槻市地域包括支援センター保健師・看護師連絡会研修会，講師補助（グループワークファシリテーター），「ネットワークの力で地域ぐるみの効果的な介護予防を！」 交野市立地域子育て支援センター指定管理者候補者選定委員 日本看護研究学会第 30 回近畿・北陸地方会学術集会実行委員

VII. 地域・社会貢献

地域・社会貢献

赤澤千春	医療法人康生会武田病院教育研修(新人、中堅)
佐々木綾子	大阪医科大学リプロダクティブヘルスケア研究会運営, 2016 年 12 月 15 日 新生児サポーター養成講座運営・講師, 2016 年 12 月 22 日
鈴木久美	乳房健康研究会理事 大阪 QOL の会 (患者会) 世話人 なにわ乳がんを考える会世話人 女性が知っておきたい病気とこころのこと, こころとからだ講座講師, ドーン財団 (一般財団法人大阪府男女共同参画推進財団), 2016. 10. 1, (大阪) 乳がん検診受診に対する無関心層へのはたらきかけ, 健康ソムリエ養成講座講師, 明石市市民・健康管理推進課, 2016. 10. 21, (兵庫)
田中克子	シンメディカル糖尿病セミナー 世話人
津田泰宏	大阪医科大学肝疾患支援センター 市民公開講座 医師相談ブース 第 212 回日本内科学会近畿地方会 一般演題 座長 日本消化器病学会 近畿支部 第 106 回例会 シンポジウム座長
泊 祐子	岐阜県重症心身障がい児者看護人材育成研修会, 「重症心身障がい児者の看護概論」講義 (平成 26 年度より) 大阪医科大学看護学部家族看護研究会主催 (平成 23 年より) 岐阜県重症心身障がい児者家族支援研究会主催 (平成 27 年より)
林 優子	学校法人大阪医科大学評議員
道重文子	NPO 阪神高齢者・障害者支援ネットワーク, ふれあい喫茶での健康相談 関西オーラルマネジメント研究会ハンズオンセミナーの開催, 2016. 5. 29
カルデナス 暁東	市立柏原病院看護研究講師 (2016、4～現在) 留日中国人生命科学協会理事 (2016、4～現在) 留日中国人生命科学協会 2016 年度学術大会 (2016, 11, 20) 座長、実行委員 シンメディカル糖尿病セミナー 世話人
久保田正和	認知症を理解し地域で支える会協力会員
真継和子	大学ー地域ー病院協働型健康支援活動による人材育成プロジェクト「いきいき！プロジェクト cocokara」三島南病院における健康支援活動 (大阪医科大学看護学部在宅看護学主催) NPO 法人シーン 街かどデイハウス「元気いっぱいサロン」街かど介護予防教室実施
佐野かおり	大学ー地域ー病院協働型健康支援活動による人材育成プロジェクト「いきいき！プロジェクト cocokara」三島南病院における健康支援活動 NPO 法人シーン 街かどデイハウス「元気いっぱいサロン」街かど介護予防教室実施
竹 明美	大阪医科大学リプロダクティブヘルスケア研究会運営, 2016 年 12 月 15 日 新生児サポーター養成講座運営・講師, 2016 年 12 月 22 日

大橋尚弘	<p>地域包括ケア推進を担う人材育成拠点「いきいき！プロジェクト cocokara」の運営・三島南病院での健康講座の実施</p> <p>第 12 回たかつき NPO 協働フェスタでの健康チェック・相談の実施，NPO ひろば，81，2016.10.08，（大阪）</p> <p>NPO 法人 SEAN 「生きがい工房 元気いっぱいサロン」講師</p>
------	--

VIII. その他

その他

赤澤千春	大阪医科大学附属病院 形成外科外来 リンパ浮腫看護外来従事
佐々木綾子	子育ての知恵 ふくいのマイスターより、10 代女子月経の悩み、家族そっとサポートを、福井新聞 2016. 5. 5 掲載 掲載協力：NHK 出版編 NHK スペシャル制作班：最新科学でハッピー子育て、NHK 出版、2016 NHK スペシャル制作班：ママたちが非常事態！？、ポプラ社、2016.
林 優子	関西研究会（研究会代表者：西菌貞子）：今後、社会で求められる看護人材」の育成に向けた研究会 患者教育研究会（研究会代表者：河口てる子）：看護教育モデルの構築と実践
カルデナス 暁東	大阪医科大学附属病院 皮膚科 メイクセラピー看護外来従事
久保田正和	訪問看護事例検討会
瓜崎貴雄	FROMPAGE 主催国公立大学・私立大学合同進学ガイダンス 夢ナビライブ 2016（大阪会場） 「人の気持ちをよりよく理解するためには？」 講師
月野木ルミ	東日本大震災前後と保健統計の研究：震災前後の腎尿路泌尿器系疾患死亡の状況，第 75 回日本公衆衛生学会，大阪 優秀ポスター賞
寺口佐與子	大阪医科大学附属病院 形成外科外来 リンパ浮腫看護外来従事
西頭知子	日本周産期・新生児医学会新生児蘇生法「一次」コース認定
林 文子	助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）レベル III「アドバンス助産師」認定
山埜ふみ恵	第 75 回日本公衆衛生学会総会，示説（ポスター）賞

編集後記

今年度も皆様のご協力を賜りましたおかげで「大阪医科大学看護学部年報 2016 年度」を無事発刊する事ができました。本学看護学部は昨年の大学院看護学研究科博士前期課程に続き、今年の3月には博士後期課程が完成年度を迎え、2名の看護学博士が誕生いたしております。

先生方にご尽力いただいたこの1年間の大学運営への取り組みや教育・研究活動、および大学院看護学研究科の運営および教育・研究活動の内容をご紹介します。今後の活動や自己点検等に役立てていただければ幸いです。

最後に年報作成にご協力いただきました教員をはじめ関係各位の皆様に深くお礼申し上げます。

大阪医科大学看護学部 年報編集委員会

大阪医科大学
看護学部 2016 年度年報

発行日	平成 29 年 7 月 31 日
発 行	大阪医科大学看護学部 〒569-0095 大阪府高槻市八丁西町 7-6
編 集	看護学部 年報編集委員会 鈴木久美 津田泰宏 草野恵美子 大橋尚弘 杉山恵美子（看護学事務課）
制 作	（有）知人社

